

開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中 釜 齊

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科		8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科		16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				427	427

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	257	4.2	261.2	看護補助者	79	診療エックス線技師	0
歯科医師	3	0.1	3.1	理学療法士	7	臨床検査技師	82
薬剤師	80	0	80	作業療法士	2	衛生検査技師	0
保健師	0	0.3	0.3	視能訓練士	1	その他	0
助産師	0	0	0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	547	11.7	558.7	臨床工学士	8	医療社会事業従事者	7
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	16
歯科衛生士	2	0	2	歯科技工士	0	事務職員	207
管理栄養士	12	0	12	診療放射線技師	57	その他の職員	304

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	27	眼科専門医	2
外科専門医	41	耳鼻咽喉科専門医	6
精神科専門医	1	放射線科専門医	16
小児科専門医	2	脳神経外科専門医	0
皮膚科専門医	1	整形外科専門医	0
泌尿器科専門医	4	麻酔科専門医	7
産婦人科専門医	3	救急科専門医	0
		合計	110

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (土井 俊彦) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

当院における医療事故防止及び医療事故に係る対応方法等医療安全管理について審議するために設置された医療安全管理委員会に平成28年4月から委員として医療に係る安全管理の業務に従事。令和6年4月1日より同委員会委員長に就任

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	392.4人	0人	392.4人
1日当たり平均外来患者数	1,357.5人	46.1人	1,403.6人
1日当たり平均調剤数	3,420.8		剤
必要医師数	116.92		人
必要歯科医師数	3		人
必要薬剤師数	13		人
必要(准)看護師数	243		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	408.06 m ²	鉄骨	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	8 床	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	124	m ²	病床数 8 床
	[移動式の場合]	台数		台	
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	108.79 m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	330.8 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学臨床検査システム		
細菌検査室	128.37 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物同定・薬剤感受性装置		
病理検査室	620.2 m ²	鉄骨	(主な設備) 自動固定包理装置、組織標本作成装置		
病理解剖室	48.36 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理解剖装置一式		
研究室	985.5 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置		
講義室	285 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 3 室	収容定員	160 人
図書室	117.05 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数	3,900 冊 程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		105.2	%	逆紹介率		75.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数					9,720	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数					7,526	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数					711	人
	D: 初診の患者の数					9,916	人

- 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 (注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長谷川 奉延	慶應義塾大学病院	○	特定機能病院の 医療安全管理体制に精通	無	1
小田 竜也	筑波大学附属病院		特定機能病院の 医療安全管理体制に精通	無	1
櫻井 公恵	NPO法人 GISTERS		患者団体の役員として 医療問題に精通	無	2
福田 剛久	田辺総合法律事務所		弁護士として関係の法律に 精通	無	1
林 隆一	国立がん研究センター東病院		診療担当副院長として院内 診療・医療安全体制を熟知	有	1

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
当院のホームページに記載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
陽子線治療	32人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	1
扱い患者数の合計(人)	32人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	1人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん	3人
術後のアスピリン経口投与療法	5人
プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断	12人
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	5人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	21人
シスプラチン静脈内投与及び強度陽子線治療の併用療法	2人
アスピリン経口投与療法	0人
ラメルテオン経口投与療法	48人
ネシツムマブ静脈内投与療法	4人
高齢者切除可能膵癌に対する術前ゲムシタビン+S-1療法と術前ゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法	9人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	13
取扱い患者数の合計(人)	110人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(胸部、腹部等の操作によるもの)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 胸腔鏡下手術は、食道がんのある「胸部」だけではなく「頸部」「腹部」も「術対象とする高侵襲な開胸手術と比較して、体の傷がより最小となる低侵襲なものであり、「術の負担・術後の痛みの軽減、より精緻で機能温存に配慮したものである。			
医療技術名	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	取扱患者数	72
当該医療技術の概要 経内視鏡的に高周波切除器を用いて病変の周囲を全周性に切開し、粘膜下層を剥離することにより、最大径が2cmから5cmの早期癌又は腺腫に対して、病変を含む範囲を一括で切除する。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	113
当該医療技術の概要 腹腔鏡による肝切除は近年デバイスの進歩により安全性が増してきており、従来の開腹手術と比較し根治性を保ったうえでより低侵襲な手術が施行可能である。病変が肝臓の左葉外側区域や下区域の表面にある場合は、腹腔鏡下肝切除術に好ましい条件である。また後区域の腫瘍に対しては半腹臥位にて安全な手術が可能となっている。			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腹腔鏡による腓体尾部切除術は現在腓低悪性度腫瘍に保険収載され一部の施設で行われている。デバイスの進歩により術後腓液腫もほとんど起こらず、高い安全性のもと積極的な導入が進んでいる。			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	220
当該医療技術の概要 手術用ロボット(ダ・ヴィンチ:da Vinci)の支援下に行われる腹腔鏡下根治的前立腺摘除術。ダ・ヴィンチは医師が手術時に見る内視鏡画面が3Dになっていて、さらに視野を拡大することができる。また、鉗子の動きも細かく、自由度が高いためより繊細で正確な手術を行うことが可能。根治性、尿禁制(尿失禁がない状態)を含む機能温存においても優れている。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 ロボット支援下前立腺全摘除術はお腹に小さな穴をあけてお腹の中で開放手術(下腹部(臍下～恥骨まで)の切開を行う)と同様の手術を行うことで、従来の開腹手術に比較しより精密な手術操作が可能のため術中術後の合併症が少ない、出血量が少ないなどの多くの利点がある。			
医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(頸、胸、腹部操作・手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 胸腔鏡手術では、手術鉗子の操作性に制限があるため、胸の中の重要な臓器に挟まれた食道とその周囲のリンパ節を切除することにおいて、ロボット手術の導入が望まれており、特に、声帯を動かす反回神経の周囲にあるリンパ節の切除において、ロボット手術の多関節鉗子による繊細な動きが可能となることより、確実なリンパ節郭清が行うことができかつ声帯麻痺などの合併症の低減につながる。			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除、1肺葉超・手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	78
当該医療技術の概要 ロボット支援下肺葉切除術では、側胸部に4cm程度の小開胸創の他に、1cm程度のポートを4箇所において手術操作を行い、特にリンパ節郭清などの精緻な操作において、3D両眼視下に多関節鉗子を使用することができるロボット支援下手術は大変有効である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	90
当該医療技術の概要 胃がん手術において切除するリンパ節は、胃の周囲にある重要な血管や胃の背面にあるすい臓の周りにあり、血管やすい臓を傷つけることなく、完全にとりきることが重要なため、通常の腹腔鏡下手術では熟練が必要な手技となるが、ダビンチを使用することで、血管・すい臓をきれいに残しつつ確実にリンパ節を切除することが容易になる。			

医療技術名	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	93
当該医療技術の概要 ダビンチはその高解像度3D視野・多自由度鉗子・手振れ防止機能などの良好な操作性を兼ね備えており、腹腔鏡に比較して正確で迅速な腫瘍切除が可能で、切除面の縫合も極めて容易となることから、腫瘍部分を切除する際に行う腎血流遮断時間の短縮につながるとされている。腎血流遮断時間の短縮は術後腎機能の保持に結びつくといわれており、さらに正確な腫瘍切除により癌細胞の取り残しが予防できること・確実な腎臓の実質の縫合が可能となることから術後腎出血・尿路外溢流・仮性動脈瘤の頻度が低くなることなど、患者メリットが大きい。			
医療技術名	子宮附属器腫瘍摘出術(手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 本術式は従来の開腹手術と比較して低侵襲であり、さらにロボット手術の特徴として画質が非常に良く毛細血管まで確認しながら手術できるため、腹腔鏡手術と比較しさらに出血量を抑えられ、またロボットアームは関節の自由度が拡大するためより高い精度の手術を提供できるなど、患者メリットが大きい。			
医療技術名	光免疫療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 光免疫療法は、光に反応する薬を投与し、薬ががんに十分集まったところでがんに対してレーザー光をあてることで治療する新しいがん治療法であり、「切除不能な局所進行又は局所 再発の頭頸部癌」に対する治療として2020年9月に承認された。 光免疫療法用の薬はがん細胞の抗体に集まる性質を持つ光に反応する物質で、この薬を点滴投与すると1日程度で徐々にがんに集まり、そこにレーザー光を当てると薬が反応することでがん細胞が破裂し死滅するが、正常細胞はこの薬がほとんどつかず、レーザー光を当ててもダメージを受けないので治療部位以外での副作用はなく、患者メリットが大きい。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	12
取扱い患者数の合計(人)	754

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	パーキンソン病	1	56		
2	全身型重症筋無力症	1	57		
3	特発性血小板減少性紫斑病	2	58		
4	後縦靱帯骨化症	1	59		
5	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1	60		
6	アジソン病	1	61		
7	サルコイドーシス	2	62		
8	原発性胆汁性胆管炎	1	63		
9	クローン病	1	64		
10	潰瘍性大腸炎	9	65		
11	ファンコニ貧血	1	66		
12	IgG4関連疾患	1	67		
13			68		
14			69		
15			70		
16			71		
17			72		
18			73		
19			74		
20			75		
21			76		
22			77		
23			78		
24			79		
25			80		
26			81		
27			82		
28			83		
29			84		
30			85		
31			86		
32			87		
33			88		
34			89		
35			90		
36			91		
37			92		
38			93		
39			94		
40			95		
41			96		
42			97		
43			98		
44			99		
45			100		
46			101		
47			102		
48			103		
49			104		
50			105		
51			106		
52			107		
53			108		
54			109		
55			110		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	12
合計患者数(人)	22

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・データ提出加算2・4
・特定機能病院入院基本料	・入退院支援加算2
・診療録管理体制加算1	・地域連携診療計画加算
・医師事務作業補助体制加算1	・入院時支援加算
・急性期看護補助体制加算1	・総合機能評価加算
・看護職員夜間配置加算1	・認知症ケア加算1
・地域加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・排尿自立支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料3
・無菌治療室管理加算2	・緩和ケア病棟入院料1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・がんゲノム拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・指導強化加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・術後疼痛管理チーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・がん患者指導管理料イ	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん患者指導管理料ニ	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・外来緩和ケア管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・移植後患者指導管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・外来放射線照射診療料	・経気管支凍結生検法
・外来腫瘍化学療法診療料1	・画像診断管理加算3
・連携充実加算	・ポジトロン断層撮影及びポジトロン・コンピュータ断層複合撮影
・ニコチン依存症管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・大腸CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・乳房MRI撮影加算
・がん治療連携管理料	・頭部MRI撮影加算
・外来排尿自立指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料1	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料2	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・がんゲノムプロファイリング評価提供料	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝学的検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・骨髄微小残存病変量測定	・がん患者リハビリテーション料
・BRCA1/2遺伝子検査	・リンパ浮腫複合的治療料
・がんゲノムプロファイリング検査	・集団コミュニケーション療法料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
・センチネルリンパ節加算	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)1	・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術	・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術(便失禁)	・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うものに限る。))	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	・輸血管理料Ⅰ
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	・輸血適正使用加算
・胃瘻造設術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・胆管悪性腫瘍手術{膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る}	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下肝切除術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・周術期薬剤管理加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・粒子線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・粒子線治療適応判定加算
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・粒子線治療医学管理加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡支援機器を用いるもの)(外陰、会陰)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡支援機器を用いる場合)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯科外来診療環境体制加算2
・腹腔鏡下子宮悪性手術(子宮頸がんに限る。)	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術	・歯科治療時医療管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回/年	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	5例
	剖検率(%)	0.77%

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん診療連携拠点病院等における緩和ケアの質の向上に資する実施調査の実装、及びがんと診断された時からの緩和ケアの更なる推進に資する研究	小川 朝生	精神腫瘍科	7,046,956	補	厚生労働省
がんゲノム医療推進に向けたがん遺伝子パネル検査の実態把握とがんゲノム医療提供体制構築に資する研究	大津 敦	東病院長	12,000,000	補	厚生労働省
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究	坪井 正博	呼吸器外科	1,300,000	補	厚生労働省
がん患者の治療と仕事の両立・就職支援プログラム実装化のための研究－持続可能な体制づくり－	大津 敦	東病院長	9,999,000	補	厚生労働省
がん診察を行う医療機関における支持療法の質の向上に資する研究	全田 貞幹	放射線治療科	7,300,000	補	厚生労働省
小児・AYA世代のがん経験者の健康アウトカムの改善および根治困難ながんと診断されたAYA世代の患者・家族の生活の質の向上に資する研究	坂本 はと恵	ソーシャルワーカー室	200,000	補	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究	田尻 和子	循環器科	307,000	補	厚生労働省
海外における標準化を有した高品質医療リアルワールドデータ基盤整備のための調査研究	青柳 吉博	臨床研究支援部門臨床研究推進部システム管理室	307,000	補	厚生労働省
ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究	桑田 健	遺伝子診療部門	500,000	補	厚生労働省
リアルワールドデータの二次利用加速にむけた多施設データ処理方式の導入の試行研究	青柳 吉博	臨床研究支援部門臨床研究推進部システム管理室	4,680,000	補	厚生労働省
大規模トランスクリプトームからの自律的知能獲得システム基盤の開発	飯田 直子	医薬品開発推進部門医薬品開発推進部トランスレーショナルリサーチ支	650,000	補	文部科学省
心房細動の非侵襲的手術である放射線治療焼灼術の新規技術開発	橘 英伸	放射線品質管理室	3,280,000	補	文部科学省
がん幹細胞結合ペプチドと高エネルギーα線核種を融合した核医学治療の開発	吉本 光喜	研究企画推進部門	6,110,000	補	文部科学省
薬物療法後のがん細胞再増殖を規定するがん微小環境の研究	石井 源一郎	病理・臨床検査科	6,760,000	補	文部科学省
固形がんを対象とする新規キメラ抗原受容体(CAR)マクロファージ療法の開発	植村 靖史	免疫療法開発分野	2,520,000	補	文部科学省
進行がん患者への新たな心理的支援法開発に向けた行動活性化療法のランダム化比較試験	小川 朝生	精神腫瘍科	650,000	補	文部科学省

ヒト胎児用超高分解能MRIの開発と標準胎児脳高精細アトラスの構築	山口 雅之	放射線診断科	130,000	補	文部科学省
患者体内リアルタイム陽子線照射量分布可視化システムの基盤創成	秋元 哲夫	放射線治療科	390,000	補	文部科学省
治療抵抗性大腸癌サブタイプにおける新規ドライバー遺伝子の同定と治療法の開発	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	130,000	補	文部科学省
クライオ電顕解析による分子配向の最適化に基づく多機能性プロドラッグ抗体の創製	安永 正浩	新薬開発分野	1,040,000	補	文部科学省
がん組織の空間的マルチスケール解析による免疫監視と免疫寛容制御機構の解明	設楽 紘平	消化管内科	1,040,000	補	文部科学省
新しい複合組織移植『肛門移植』の開発に向けた異分野共同研究	西澤 祐吏	大腸外科	130,000	補	文部科学省
腫瘍血管の酸素供給能から低酸素環境を可視化する光音響イメージング	矢野 友規	消化管内視鏡科	3,070,000	補	文部科学省
老化細胞を標的とした治療開発のための包括的基盤研究とその臨床応用	中面 哲也	免疫療法開発分野	2,600,000	補	文部科学省
良性食道狭窄を加熱・牽引により解決する革新的医療機器	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	130,000	補	文部科学省
超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立	西澤 祐吏	大腸外科	39,000	補	文部科学省
ローカル操作内視鏡手術支援ロボットの自律レベル向上の研究	西澤 祐吏	大腸外科	390,000	補	文部科学省
胃癌の病理学のおよび分子生物学的腫瘍内不均一性に関する検討	桑田 健	遺伝子診療部門	1,300,000	委	文部科学省
放射線誘導免疫応答におけるnon-coding RNA pathwayの解析	影山 俊一郎	粒子線医学開発分野	1,040,000	委	文部科学省
1細胞解析を用いた放射線治療による腫瘍微小環境、免疫応答変化の解析	北條 秀博	放射線治療科	550,000	委	文部科学省
リキッドバイオプシーによる早期肺癌に対する放射線治療後の再発予測に関する研究開発	中村 匡希	放射線治療科	910,000	委	文部科学省
堅牢性の高い強度変調放射線治療の臨床実現に向けた医学的および物理的検討	茂木 佳菜	放射線品質管理室	780,000	委	文部科学省
頭頸部IMRTにおける適応放射線治療を実施する判断基準の定量的評価	良知 寿哉	放射線技術部放射線治療技術室	520,000	委	文部科学省
超高線量率陽子線治療の実現へ向けた実験環境の構築と臨床応用への検討	堀田 健二	放射線品質管理室	520,000	委	文部科学省
高精度放射線治療における新たな三次元線量分布評価法の開発と臨床的有効性	高橋 良	放射線品質管理室	810,000	委	文部科学省

放射線治療CT画像に起因する線量誤差定量化及びデュアルエネルギーCTの多施設評価	中市 徹	放射線品質管理室	1,170,000	委	文部科学省
強度変調陽子線治療に対するActual線量分布に基づくNTCPモデルの構築	馬場 大海	放射線品質管理室	1,460,000	委	文部科学省
FGF-FGFR活性化去勢抵抗性前立腺癌オルガノイドの解析による個別化医療の探求	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	13,000	委	文部科学省
リンカー技術と抗体工学を駆使したアスタチン-211の腫瘍特異的送達方法の開発	高島 大輝	新薬開発分野	2,340,000	委	文部科学省
肺腺癌multi-omicsデータを用いた、ミトコンドリアの分子病理学的意義探索	坂下 信悟	臨床腫瘍病理分野	1,300,000	委	文部科学省
シングルセル解析による腫瘍微小環境PD-1陽性制御性T細胞の分化メカニズムの解明	入江 拓磨	免疫TR分野	910,000	委	文部科学省
免疫療法の効果持続に関わる因子の基盤的検討	小山 正平	免疫TR分野	650,000	委	文部科学省
患者由来オルガノイドを用いた胃癌新規治療標的の探索	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	260,000	委	文部科学省
術中迅速MRI画像診断法の開発	池田 公治	大腸外科	1,430,000	委	文部科学省
術者鉗子もしくは手術工程に連動する子宮マニピュレーターロボットの開発	竹中 慎	婦人科	520,000	委	文部科学省
消化管がんオルガノイドを用いた抗がん剤耐性獲得機構の解析	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	1,040,000	委	文部科学省
非小細胞性肺癌リンパ節転移診断能向上のための3次元Radiomics解析	佐々木 智章	放射線診断科	1,560,000	委	文部科学省
造血器悪性腫瘍における活性化制御性T細胞の制御機構解明	湯田 淳一朗	血液腫瘍科	780,000	委	文部科学省
医学研究におけるジョイントモデリングに基づく予後予測手法の研究開発	三角 俊裕	医薬品開発推進部門 データサイエンス部 データサイエンス室	780,000	委	文部科学省
染色体不安定性を有する細胞の細胞死回避メカニズムの解明	山盛 智子	共通研究開発分野	910,000	委	文部科学省
ミトコンドリアDNAをターゲットとした免疫原性を高める新たな治療戦略	田中 広祐	免疫TR分野	780,000	委	文部科学省
AIを用いた大腸癌術後再発早期診断のための医療機器プログラムの開発	坂東 英明	消化管内科	2,340,000	委	文部科学省
頭頸部扁平上皮癌化学放射線治療における口腔内・腸内細菌叢の統合解析と病態の理解	榎田 智弘	頭頸部内科	2,340,000	委	文部科学省
BRCA2非翻訳領域上に存在する新規生殖細胞突然変異のメカニズム解析	大橋 紹宏	共通研究開発分野	3,640,000	委	文部科学省

Dual-energy/Photon-counting multi-energy CTを用いた骨差分ヨード画像の開発	檜山 貴志	放射線診断科	1,170,000	委	文部科学省
新規CENP-E阻害剤による染色体不安定性を介した自然免疫惹起機構の解明	鎌田 諒	共通研究開発分野	1,980,000	委	文部科学省
「日本人CHIPパネル」の構築とデータベース化	池 成基	TI分野	2,210,000	委	文部科学省
大規模臨床試験GALAXYのctDNAおよび画像統合解析による放射線治療の最適化	大吉 秀和	放射線治療科	1,590,000	委	文部科学省
メタボローム解析によるがん代謝異常に基づいた放射線治療効果予測バイオマーカー探索	富澤 建斗	放射線治療科	3,120,000	委	文部科学省
放射線治療のExceptional responseの分子遺伝学的特徴を解明するオミクス統合解析	平田 秀成	放射線治療科	2,630,000	委	文部科学省
Basal-Squamous subtype 膀胱がんにおける免疫療法耐性機構の解明	尾張 拓也	免疫TR分野	1,170,000	委	文部科学省
表情・行動解析を用いたせん妄の病態解明と診断技術の開発	小川 朝生	精神腫瘍科	520,000	委	文部科学省
肺がんの組織学的な腫瘍内不均一性の定量化とその生物学的・臨床的意義の解析	滝 哲郎	病理・臨床検査科	910,000	委	文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の免疫機構の解明	田尻 和子	循環器科	1,620,000	委	文部科学省
肛門括約筋障害モデルラットを用いた移植細胞生着のための足場の検討	西澤 祐吏	大腸外科	1,235,000	委	文部科学省
甲状腺未分化がんにおける腫瘍内不均一性の解析と治療耐性メカニズムの解明	奥村 元紀	免疫TR分野	2,860,000	委	文部科学省
HER2陽性大腸癌臨床検体のオミックス解析にもとづく治療抵抗性克服への基盤構築	今井 光穂	医薬品開発推進部門 医薬品開発推進部トランスレーショナルリサーチ支援室	2,210,000	委	文部科学省
臓器特異的制御性T細胞の分化誘導機構の解明	板橋 耕太	免疫TR分野	1,820,000	委	文部科学省
がんフォローアップ患者のための過去画像との比較に特化したAI画像診断システムの開発	久野 博文	放射線診断科	1,300,000	委	文部科学省
内視鏡下手術支援ローカル操作助手マニピュレータ	西澤 祐吏	大腸外科	260,000	委	文部科学省
がん治療効果予測に資する病理学的指標の探索と最適化	石井 源一郎	病理・臨床検査科	26,000	委	文部科学省
表情・行動解析を用いたせん妄の病態解明と診断技術の開発	小川 朝生	精神腫瘍科	121,631	委	文部科学省
がん関連線維芽細胞の精密標的により免疫療法をブーストするナノ治療薬の開発	小嶋 基寛	臨床腫瘍病理分野	650,000	委	文部科学省

早期胃がんの機能的特徴を活用したAI内視鏡画像診断	矢野 友規	消化管内視鏡科	195,000	委	文部科学省
地域共生社会の実現に資する医療ソーシャルワーク管理のあり方に関する研究	坂本 はと恵	ソーシャルワーカー室	325,000	委	文部科学省
鎖肛術後排便障害に対するスマートフォンを用いたバイオフィードバック装置の開発	西澤 祐吏	大腸外科	52,000	委	文部科学省
新規ヒトACTH細胞の作出と下垂体難病治療への応用	清野 透	共通研究開発分野	65,000	委	文部科学省
放射性同位元素-DTPA-siRNAの合成、合成物の純度分析	加納 大輔	薬剤部	130,000	委	文部科学省
肺肉腫様癌に対するPD-1阻害薬治療の最適化と耐性機序の解明	板橋 耕太	免疫TR分野	260,000	委	文部科学省
大腸がんにおけるオンコメタボライト・L2HGの分子基盤の解明	田畑 祥	TI分野	1,967,148	委	文部科学省
WT1変異・高発現白血病に対するHSP90を介した細胞死誘導機構の解明	南 陽介	血液腫瘍科	130,000	委	文部科学省
悪性腫瘍におけるテロメア伸長及び放射線内照射治療への影響に関する研究	稲木 杏吏	機能診断開発分野	2,055,174	委	文部科学省
卵巣癌における腸管マイクロバイオームとPARP阻害薬の効果に関する研究	山下 理宇	TI分野	1,430,000	委	文部科学省
固形がん転移における腫瘍内浸潤NK細胞の機能解析	奥村 元紀	免疫TR分野	1,300,000	委	文部科学省
膀胱癌の発癌・悪性化過程における腫瘍遺伝子変異と腫瘍免疫応答の関連の解明	尾張 拓也	免疫TR分野	1,430,000	委	文部科学省
尿路上皮がんの発癌および進展過程における免疫逃避メカニズムの解明	小山 正平	免疫TR分野	2,500,000	委	公益財団法人三菱財団
自己免疫性心筋炎の発症と進展における翻訳制御因子EIF4Eの役割の検討	田尻 和子	循環器科	149,202	委	公益財団法人先進医薬研究振興財団
がんの根治性と機能温存を両立させる内視鏡手術剥離ナビの開発	伊藤 雅昭	大腸外科	10,000,000	委	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
胆管癌における胆汁酸代謝に着眼した新規治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	4,000,000	委	公益財団法人内藤記念科学振興財団
DNA損傷応答に着目した分子標的薬の根源的な耐性克服を目指す新規肺癌治療の開発	田中 広祐	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人武田科学振興財団
治療選択までを見越した新たな子宮体癌診断法の開発～多重免疫染色法を用いて	長峯 理子	病理・臨床検査科	259,430	委	公益財団法人京都健康管理研究会
標的アルファ線治療の効果予測因子並びに薬効増強を目的とした抗体修飾技術の開発	高島 大輝	新薬開発分野	2,000,000	委	公益財団法人武田科学振興財団

がん微小環境の免疫抑制機構を標的とした新規がん免疫療法の開発	西川 博嘉	免疫TR分野	4,500,000	委	公益財団法人武田科学振興財団 2021年度研究助成
進行がん患者の痛みに対する交番磁界治療器の治療時間の至適条件の検討	久保 絵美	緩和医療科	1,000,000	委	公益財団法人大和証券財団
マルチオミクス解析を用いた免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の病態解明	田尻 和子	循環器科	3,000,000	委	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
脂肪由来幹細胞による再生医療のための足場材料の検討	増田 均	泌尿器・後腹膜腫瘍科	4,000,000	委	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
表情解析技術を用いたせん妄診断支援システムの開発	小川 朝生	精神腫瘍科	2,000,000	委	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
DNA損傷応答による肺がん分子標的薬の耐性機構の解明と治療開発	田中 広祐	免疫TR分野	1,500,000	委	公益財団法人MSD生命科学財団
客観的な鏡視下縫合技能評価AIモデルの構築	竹中 慎	婦人科	500,000	委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
食道癌CRT/RT後の局所遺残・再発病変に対するサルベージ内視鏡治療の治療成績及び治療効果予測におけるEUSの有用性に関する多機関前向き研究	矢野 友規	消化管内視鏡科	500,000	委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
腫瘍の抗原提示能に着目した免疫疲弊機構の解明	板橋 耕太	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
注射プラズマプローブによる組織深部の薬剤成分のin?situ計測技術の開発	高松 利寛	内視鏡機器開発分野	4,000,000	委	公益財団法人中谷医工計測技術振興財団
胆道がんにおける腸内細菌叢と抗腫瘍免疫応答に着眼した新規がん免疫治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人ヤクルト・バイオサイエンス研究財団
がん根絶を目指したがんmRNAワクチンの開発	中面 哲也	免疫療法開発分野	35,100,000	委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
先進遠隔医療のための在宅デジタル高齢者総合機能評価の開発	三浦 智史	緩和医療科	195,000	委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
免疫応答モニタリングによるがん免疫の全容理解に基づく新規層別化マーカーの開発	西川 博嘉	免疫TR分野	136,762,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シングルセル解析、空間トランスクリプトーム解析、酸素飽和度イメージング内視鏡での酸素飽和度情報を統合したmulti-layer omics dataでの食道表在癌の浸潤メカニズム解明についての研究	山下 大生	消化管内視鏡科	7,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非浸潤性乳がんの治療精密化に資する、多細胞遺伝子ネットワークに基づく新規リスク診断法の開発	大西 達也	乳腺外科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	藤田 武郎	食道外科	510,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
日米医学協力計画を基軸とした感染関連がんに関する疾患研究	清野 透	共通研究開発分野	7,035,167	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

がん細胞上の免疫抑制分子を標的とした分子標的-免疫一体型治療の樹立	小山 正平	免疫TR分野	16,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経内分泌関連腫瘍におけるがん免疫治療耐性機序の解明と治療展開	熊谷 尚悟	免疫TR分野	28,516,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
モダリティ別蛍光プローブ・イメージング法とがんモデルの選択及び最適化による薬物動態評価法の開発	安永 正浩	新薬開発分野	41,042,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
切除可能な高頻度マイクロサテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究	坂東 英明	消化管内科	51,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規ドライバー遺伝子であるLTK融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する個別化治療の開発を目指した研究	葉 清隆	呼吸器内科	58,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミトコンドリアDNAに着目した免疫原性を高めるKRAS遺伝子変異がんの新たな治療開発	田中 広祐	免疫TR分野	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
転移性病変の腫瘍不均一性が生み出すがん免疫治療抵抗性の克服	熊谷 尚悟	免疫TR分野	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腫瘍浸潤細胞の時間的空間的变化に基づく免疫抑制機構の解明と治療への展開	西川 博嘉	免疫TR分野	19,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臓器・組織の特異性に着目した新規免疫複合療法の開発	西川 博嘉	免疫TR分野	14,120,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験 (JCOG1807C)	坪井 正博	呼吸器外科	32,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内マイクロバイーム制御による次世代創薬技術の開発／課題1 (3):リバーstransレシヨナル創薬に向けた包括的マイクロバイーム制御基盤技術開発—マイクロバイーム創薬エコシステム構築に向けて—	小山 正平	免疫TR分野	117,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌 (pT1癌)に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験 (JCOG1612)	池松 弘朗	消化管内視鏡科	7,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
超高感度CE-MS 技術に基づくミクロスケール薬物動態評価プラットフォーム	小金丸 茂博	先端医療科	16,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血中循環がん細胞と個別化免疫療法で肝がん発症・再発を抑え込む技術の開発	中面 哲也	免疫療法開発分野	6,659,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん治療用抗原提示細胞プラットフォームの非臨床試験パッケージ策定研究	植村 靖史	免疫療法開発分野	10,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究	仁保 誠治	呼吸器内科	69,420,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
LTK融合遺伝子陽性肺癌の診断法と、治療開発のためのコンパニオン診断薬の確立を目指した研究	泉 大樹	呼吸器内科	10,010,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究	野崎 要	呼吸器内科	58,057,865	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
外科手術のデジタルトランスフォーメーション:情報支援内視鏡外科手術システムの開発	伊藤 雅昭	大腸外科	201,176,017	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん全ゲノム解析等による実践的個別化医療体系構築と拡充をめざした多施設共同研究	吉野 孝之	消化管内科	126,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所進行直腸癌に対する術前ctDNA 検査をコンパニオン診断薬とする術前治療?適化技術の開発に関する研究	吉野 孝之	消化管内科	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治験の実施	小林 信	肝胆膵外科	78,508,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部悪性腫瘍切除・遊離組織移植術の手術前ステロイド投与の有用性を検証する第Ⅲ相多施設共同プラセボ対照二重盲検無作為化比較試験	松浦 一登	頭頸部外科	6,382,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
酸素飽和度イメージング内視鏡を用いた免疫チェックポイント阻害剤効果予測の研究	矢野 友規	消化管内視鏡科	10,020,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん患者の身体機能やQOLを著明に低下させ在宅医療の支障となる化学療法誘発性末梢神経障害に対する交流磁界を用いた非侵襲的な、日本初・世界初の新規治療開発のための医師主導治験	久保 絵美	緩和医療科	31,502,800	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	秋元 哲夫	放射線治療科	12,790,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マルチステークホルダーを擁する支持療法・緩和治療領域における研究手法の標準化に関する研究	全田 貞幹	放射線治療科	10,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 雅昭	大腸外科	19,844,540	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	小林 達伺	放射線診断科	30,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発	小川 朝生	精神腫瘍科	27,650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん患者における術後せん妄予防のプレジジョンメディシンの開発	榎戸 正則	精神腫瘍科	1,891,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	全田 貞幹	放射線治療科	700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAスクリーニングに基づくFGFR遺伝子異常を有する難治性の治癒切除不能な進行・再発固形がんに対するTAS-120のバスケット型医師主導治験	吉野 孝之	消化管内科	156,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん全ゲノム解析等による実践的個別化医療体系構築と拡充をめざした多施設共同研究	吉野 孝之	消化管内科	30,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

スキルス胃がんにおける標準治療抵抗性の克服に資する新規治療戦略	牧野嶋 秀樹	TI分野	2,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
T細胞性腫瘍に対するCART細胞療法の医師主導治験	中面 哲也	免疫療法開発分野	1,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部扁平上皮癌に対する強度変調陽子線治療の実用化に向けた技術開発と有効性検証	秋元 哲夫	放射線治療科	15,310,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AIを用いた食道がん手術における術中反回神経認識支援システムの研究開発	藤田 武郎	食道外科	6,505,148	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HER2陽性乳癌に対する手術省略を旨とした医療機器の開発研究	向井 博文	腫瘍内科	54,860,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌I期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第III相比較試験	田部 宏	婦人科	13,102,642	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	青景 圭樹	呼吸器外科	150,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
有痛性骨転移患者の疼痛制御のための即効性を有する新規治療開発	荒井 保典	放射線診断科	7,940,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治験の実施	小林 信	肝胆膵外科	25,163,281	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高精細内視鏡併用・共焦点レーザー顕微内視鏡を用いた早期胃がんに対する狙撃光学生検の臨床応用と実用化	門田 智裕	消化管内視鏡科	500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	田原 信	頭頸部内科	3,165,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性胃がんを対象とした新規FROUNT特異的阻害薬の開発研究	中面 哲也	免疫療法開発分野	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験	全田 貞幹	放射線治療科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
メチル化合成致死を利用した高精度コンパニオン診断と治療戦略の開発	吉野 孝之	消化管内科	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
骨盤内腫瘍の内視鏡外科手術における術中リアルタイムAIナビゲーションの開発・事業化	塚田 祐一郎	大腸外科	4,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	中村 匡希	放射線治療科	150,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験	木下 敬弘	胃外科	390,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者切除可能膵癌に対する術前ゲムシタビン＋S-1療法と術前ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル療法のランダム化比較第III相試験JCOG2101C	後藤田 直人	肝胆膵外科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

高齢者進行非小細胞肺がん/膵がんに対する早期栄養・運動介入とアナモレリン塩酸塩の併用療法の多施設共同ランダム化第二相試験	光永 修一	肝胆膵内科	1,690,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所限局性前立腺癌中リスク症例に対する陽子線治療の多施設共同臨床試験と多種の放射線治療モダリティとの比較を可能とする局所限局性前立腺癌に対する強度変調放射線治療の多施設前向き観察研究	秋元 哲夫	放射線治療科	50,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺葉切除高リスク臨床病期IA期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験	青景 圭樹	呼吸器外科	500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	林 隆一	頭頸部外科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
PI3K阻害剤のプロドラッグ化による新規肉腫治療薬開発に関する研究	小山 正平	免疫TR分野	5,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づくBRCA変異を有する胆道がんに対する医師主導治験	吉野 孝之	消化管内科	14,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法開発に係る多施設共同試験	大西 達也	乳腺外科	100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	善家 義貴	呼吸器内科	640,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アカデミアにおけるCDISC標準利用促進に関する研究開発	池田 裕弥	臨床研究支援部門 データ管理室	104,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床病期I-IVA (T4を除く) 胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験	藤田 武郎	食道外科	1,001,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再発・難治性悪性リンパ腫に対するpiggyBac トランスポゾン法によるCD19 キメラ抗原受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第1/2 相医師主導治験	南 陽介	血液腫瘍科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
T細胞性悪性疾患のIL-7Rを標的にした抗体・抗がん剤複合体の開発	安永 正浩	新薬開発分野	2,250,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床病期I/II期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	青景 圭樹	呼吸器外科	100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期I期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	青景 圭樹	呼吸器外科	500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗不溶性フィブリン抗体抗がん剤複合体による浸潤がん治療を目指した研究開発	安永 正浩	新薬開発分野	3,673,900	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
放射性医薬品の物性並びに動態制御に資する新規抗体修飾技術の開発	高島 大輝	新薬開発分野	11,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腫瘍浸潤制御性T細胞の空間的分化動態に基づく新規治療開発	板橋 耕太	免疫TR分野	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

進展型小細胞肺癌に対する新たな治療開発を目指した研究	後藤 功一	呼吸器内科	7,150,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内環境解析による若年発症大腸癌の易罹患性・早期診断バイオマーカーの開発	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	2,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
早期転移発見による予後の向上を目指した乳がん術後の新たな標準的フォローアップ法開発に関する研究	内藤 陽一	総合内科	455,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性膵臓がんに対するアルファ線核医学治療に資する二重特異ペプチドの開発	藤井 博史	機能診断開発分野	11,850,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多領域の術式に応用可能なAI手術技能評価システムの研究開発	伊藤 雅昭	大腸外科	4,192,654	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
東京大学大学院における生物統計家育成のための卒業教育まで含めた一貫した教育プログラムの研究開発	吉野 孝之	消化管内科	1,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
バイオデザインコンソーシアムで実現する若手研究者による医療機器スタートアップ創成支援	伊藤 雅昭	大腸外科	30,285,600	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
固形がんの抗原不均一性の克服により治癒を目指す、多種類の共通がん抗原を標的とするカクテルCAR/TCR-T細胞療法の開発	中面 哲也	免疫療法開発分野	53,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生体内でキメラ抗原受容体T細胞応答を制御する新たな医療技術の開発	植村 靖史	免疫療法開発分野	42,471,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
フェロトーシス誘導性抗がん剤の開発	設楽 紘平	消化管内科	11,483,030	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
地域、疾患領域、臨床研究者・支援専門職ネットワークを活用した、QMSの概念に関する研究者及び研究支援者への教育研修に係る研究	小村 悠	臨床研究支援部門 研究企画推進部 研究推進室／医薬品開発推進部門	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ブライミング相の免疫調節による治療効果持続型の新規免疫療法戦略の開発	小山 正平	免疫TR分野	10,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
I型糖尿病を標的にしたIL-7R標的療法の開発	安永 正浩	新薬開発分野	3,718,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
分子標的治療薬の多標的化に先駆けた網羅的RNA解析に基づくCLDN18.2高発現を有する治療切除不能な進行・再発固形がんに対する抗CLDN18.2抗体薬物複合体医師主導治験	橋本 直佳	医薬品開発推進部門 医薬品開発推進部トランスレーショナルリサーチ支援室	10,010,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
DNA損傷応答を標的としたKRAS阻害薬の耐性克服を目指す肺がん治療開発	田中 広祐	免疫TR分野	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腎細胞がんの免疫制御機構の理解に基づく新規免疫治療の開	板橋 耕太	免疫TR分野	10,010,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
研究者に伴走し出口視点で事業化戦略を支援する産学連携プラットフォームの構築	土井 俊彦	共通研究開発分野	33,979,400	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
デザイン染色体による免疫系ヒト化動物の創成と創薬応用	中面 哲也	免疫療法開発分野	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第III相試験	葉 清隆	呼吸器内科	508,163	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理病期Ⅱ、ⅢA期非小細胞肺癌に対する術後surveillanceに関するランダム化比較試験	多根 健太	呼吸器外科	1,620,520	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	松浦 一登	頭頸部外科	390,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
L型アミノ酸トランスポーター (LAT1) 陽性腫瘍へのホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) の適応拡大に向けたオールジャパンでのバスケット型治験実現のための、コンパニオン診断薬確立を目指す研究	熊谷 尚悟	免疫TR分野	5,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多領域の術式に応用可能なAI手術技能評価システムの研究開発	伊藤 雅昭	大腸外科	49,995,284	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人工知能を用いたリキッドバイオプシーマルチオミックスによる分子残存病変検出およびがん早期発見法の開発	吉野 孝之	消化管内科	20,732,400	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
大規模ゲノムデータと検体バンクを用いた骨髄系腫瘍とクローン性造血の病態解明と新規診断・治療技術の創出	西川 博嘉	免疫TR分野	4,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝癌免疫微小環境評価モデルー病理学的評価	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	910,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
解析・データセンターにおける情報システム基盤の研究と構築	坂下 信悟	臨床腫瘍病理分野	889,231	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少がんならびに難治性がんに対する抗がん剤治療開発を加速させる創薬研究手法に関する研究	古賀 宣勝	実験動物管理室	10,188,172	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
制御性T細胞の減弱作用と分子標的阻害による新規固形がん治療法の開発	小山 正平	免疫TR分野	3,120,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗CD25抗体-色素複合体 (RM-1995)を用いた制御性T細胞を標的とした革新的がん治療法の開発	西川 博嘉	免疫TR分野	3,274,015	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血管周囲の腫瘍に対する新規アクセスデバイスの開発	吉田 泰之	医療機器開発推進部門医療機器開発支援部	4,999,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癒着性小腸閉塞に対する新たな低侵襲治療の開発	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	3,999,998	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん細胞へのウィルス抗原導入による抗腫瘍免疫応答の再起動	小山 正平	免疫TR分野	1,322,726	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
挿管操作を補助する医療機器の開発研究	橋本 学	麻酔科	3,999,998	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
直腸がん手術支援機器の開発	伊藤 雅昭	大腸外科	374,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
イヤホン型ワイヤレス脳波計を活用したAI制御デジタルセデーションの開発	矢野 友規	消化管内視鏡科	1,129,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

咽喉頭表在癌の診断を支援するAIシステムの開発	林 隆一	頭頸部外科	4,999,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
消化管狭窄に対する局所加熱型バルーン拡張デバイスの開発	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	1,485,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膵切除後の膵液瘻を予防する革新的補強材の開発	杉本 元一	肝胆膵外科	4,499,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
胆道細菌叢に着眼した新規がん免疫治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	4,999,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
直腸癌術後排便機能障害に対する脂肪組織由来幹細胞および脂肪組織を用いた新規再生治療法の開発	西澤 祐吏	大腸外科	4,999,999	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗CD25抗体-色素複合体(RM-1995)を用いた制御性T細胞を標的とした革新的がん治療法の開発	小山 正平	免疫TR分野	22,590,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
橋渡し研究プログラム	土原 一哉	TI分野	1,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
橋渡し研究プログラム	土原 一哉	TI分野	79,999,980	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国立がん研究センター東病院 臨床研究中核病院整備事業	佐藤 暁洋	臨床研究支援部門臨床研究推進部	170,726,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がんの診断・治療・緩和におけるアウトカム向上に帰する医療機器創出を目指した拠点整備事業	伊藤 雅昭	大腸外科	18,350,101	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がんの低侵襲治療における治療効果向上と合併症低減を目指した生体親和性ポリマーに関する研究開発	吉田 泰之	医療機器開発推進部門医療機器開発支援部	26,650,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がんゲノムプロファイリング検査結果に対する人工知能を用いた治療計画支援プログラムの開発・事業化	坂東 英明	消化管内科	8,580,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再発危険因子を有するハイリスクStageⅡ結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFLX6療法またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	吉野 孝之	消化管内科	778,550	委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive (EGFRm+) 進行非小細胞肺癌がん(NSCLC)初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究-Reiwa-	葉 清隆	呼吸器内科	934,463	委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
切除不能または再発胸腺癌に対するレンパチニブの多施設共同第Ⅱ相臨床試験	吉野 孝之	消化管内科	43,900	委	公益社団法人日本医師会

計230件

(注)

1

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2

「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3

「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yamamoto,T/ Shinozaki,T/ Nishiya,Y/他	頭頸部外科	Early enteral nutrition and mobilization following head and neck surgery with free flap reconstruction.	Japanese journal of clinical oncology・2024年hyae043 ページ	Original Article
2	Tomioka,T/B eppu,T/Onits uka,T/他	頭頸部外科	Post-operative progress of arm abduction function and rate of lymph node metastasis around the region of the accessory nerve: a multicentre prospective observational study.	Japanese journal of clinical oncology・2023年53巻5号 401-409ページ	Original Article
3	Shinozaki,T/I mai,T/Kobay ashi,K/他	頭頸部外科	Preoperative steroid for enhancing patients’ recovery after head and neck cancer surgery with free tissue transfer reconstruction: protocol for a phase III, placebo-controlled, randomised, double-blind study (J-SUPPORT 2022, PreSte-HN Study).	BMJ open・2023年13巻5号 e069303ページ	Original Article
4	Shinozaki,T	頭頸部外科	[IV. Supportive Care for Photoimmunotherapy].	Gan to kagaku ryoho. Cancer & chemotherapy・ 2023年50巻7号789-793 ページ	Original Article
5	Shinozaki,T/ Matsuura,K/ Okano,W/他	頭頸部外科	Eligibility for Photoimmunotherapy in Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Head and Neck Cancer and Changes before and after Systemic Therapy.	Cancers・2023年15巻15号 3795ページ	Original Article
6	Tanaka,H/En okida,T/Oka no,S/他	頭頸部外科	Subsequent chemotherapy with paclitaxel plus cetuximab-based chemotherapy following immune checkpoint inhibitor in recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	Frontiers in oncology・ 2023年13巻1221352ペー ジ	Original Article
7	Idogawa,H/S hinozaki,T/O kano,W/他	頭頸部外科	Nasopharyngeal Carcinoma Treated With Photoimmunotherapy.	Cureus・2023年15巻11号 e49315ページ	Case report
8	Sato,M/Enoki da,T/Wada,A /他	頭頸部内科	Potential efficacy of local therapy for progressive lesions after nivolumab in patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	International journal of clinical oncology・2023年 28巻8号1023-1032ページ	Original Article
9	Wada,A/Eno kida,T/Okano, S/他	頭頸部内科	Proton pump inhibitors and antibiotics adversely effect the efficacy of nivolumab in patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・ 2023年184巻30-38ページ	Original Article

10	Onaga,R/Enokida,T/Ito,K/ 他	頭頸部内科	Combination chemotherapy with taxane and platinum in patients with salivary gland carcinoma: a retrospective study of docetaxel plus cisplatin and paclitaxel plus carboplatin.	Frontiers in oncology・2023年13巻1185198ページ	Original Article
11	Hoshi,Y/Shirakura,S/Yamada,M/ 他	頭頸部内科	Site of distant metastasis affects the prognosis with recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma patients treated with Nivolumab.	International journal of clinical oncology・2023年28巻9号1139-1146ページ	Original Article
12	Horinouchi,A/ Enokida,T/Suzuki,S/ 他	頭頸部内科	A pharmacist-led opioid de-escalation program after completion of chemoradiotherapy in locally advanced head and neck cancer.	Frontiers in oncology・2023年13巻1145323ページ	Original Article
13	Matsuyama,C/ Enokida,T/Ueda,Y/ 他	頭頸部内科	Planned drug holidays during treatment with lenvatinib for radioiodine-refractory differentiated thyroid cancer: a retrospective study.	Frontiers in oncology・2023年13巻1139659ページ	Original Article
14	Takeshita,N/ Enokida,T/Okano,S/ 他	頭頸部内科	Weekly paclitaxel, carboplatin and cetuximab (PCE) combination followed by nivolumab for recurrent and/or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (R/M SCCHN).	Oral oncology・2023年147巻106615ページ	Original Article
15	Oshima,A/Wakabayashi,M/ Ikeno,T/ 他	形成外科	Second free jejunum transfer after flap loss does not affect oral intake: A retrospective case-control study.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery・2024年88巻208-223ページ	Original Article
16	Hidaka,T/Miyamoto,S/Furuse,K/ 他	形成外科	Machine learning approach to predict tracheal necrosis after total pharyngolaryngectomy.	Head & neck・2024年46巻2号408-416ページ	Original Article
17	Kondo,A/Umezawa,H/Fukunaga,Y/ 他	形成外科	Supermicrovascular anastomosis training using chicken wings and colored water.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery・2023年84巻531-536ページ	Original Article
18	Higashino,T/Oshima,A/ Fukunaga,Y/ 他	形成外科	Combination of an Exteriorized Monitoring Flap and Hand-held Doppler for Simple and Reliable Monitoring of a Free Jejunal Graft Transfer in Hypopharyngeal Reconstruction Microsurgery.	Journal of Plastic and Reconstructive Surgery・2023年2巻3号118-121ページ	Others
19	Matsubara,N/ de,Wit,R/Balar,AV/ 他	腫瘍内科	Pembrolizumab with or Without Lenvatinib as First-line Therapy for Patients with Advanced Urothelial Carcinoma (LEAP-011): A Phase 3, Randomized, Double-Blind Trial.	European urology・2024年85巻3号229-238ページ	Original Article
20	Matsubara,N/ Matsuyama,H/ Kazama,H/ 他	腫瘍内科	Baseline characteristics may impact treatment duration of cabazitaxel in patients with mCRPC: a subanalysis of data from a post-marketing surveillance.	Japanese journal of clinical oncology・2024年54巻1号97-102ページ	Original Article
21	Funasaka,C/ Hanai,A/Zenda,S/ 他	腫瘍内科	Mitigation of paclitaxel-induced peripheral neuropathy in breast cancer patients using limb-cooling apparatus: a study protocol for a randomized controlled trial.	Frontiers in oncology・2023年13巻1216813ページ	Original Article

22	Naito,Y/Mish ima,S/Akagi, K/他	腫瘍内科	Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of tropomyosin receptor kinase inhibitors in adult and pediatric patients with neurotrophic receptor tyrosine kinase fusion-positive advanced solid tumors.	International journal of clinical oncology・2023年 28巻7号827-840ページ	Original Article
23	Matsubara,N/ de,Bono,J/Sw eeney,C/他	腫瘍内科	Safety Profile of Ipatasertib Plus Abiraterone vs Placebo Plus Abiraterone in Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer.	Clinical genitourinary cancer・2023年21巻2号 230-237.e1ページ	Original Article
24	Abel,ML/Tak ahashi,N/Pee r,C/他	腫瘍内科	Targeting Replication Stress and Chemotherapy Resistance with a Combination of Sacituzumab Govitecan and Berzosertib: A Phase I Clinical Trial.	Clinical cancer research・ 2023年29巻18号3603- 3611ページ	Original Article
25	Uematsu,M/ Nakajima,H/ Hosono,A/他	腫瘍内科	Safety of immune checkpoint inhibitors after proton beam therapy in head and neck mucosal melanoma: a case series.	Melanoma research・2023 年33巻6号547-552ページ	Original Article
26	Takahashi,N/ Hao,Z/Villaru z,LC/他	腫瘍内科	Berzosertib Plus Topotecan vs Topotecan Alone in Patients With Relapsed Small Cell Lung Cancer: A Randomized Clinical Trial.	JAMA oncology・2023年9 巻12号1669-1677ページ	Original Article
27	Naito,Y/Nishi da,T/Doi,T/ 他	総合内科	Current status of and future prospects for the treatment of unresectable or metastatic gastrointestinal stromal tumours.	Gastric cancer・2023年26 巻3号339-351ページ	Review
28	Miyoshi,T/Ta ne,K/Samejim a,J/他	呼吸器外科	Predictors of residual simultaneous multiple ground-glass nodule progression after dominant lesion resection.	General thoracic and cardiovascular surgery・ 2024年72巻3号183-191 ページ	Original Article
29	Suzuki,J/Miy oshi,T/Tane, K/他	呼吸器外科	The significance of regular chest computed tomography in postoperative surveillance for surgically resected non- small cell lung cancer based on TNM 8th staging system.	General thoracic and cardiovascular surgery・ 2024年72巻5号346-354 ページ	Original Article
30	Miyoshi,T/Ito ,H/Wakabaya shi,M/他	呼吸器外科	Risk factors for loss of pulmonary function after wedge resection for peripheral ground-glass opacity dominant lung cancer.	European journal of cardio-thoracic surgery・ 2023年64巻6号ezad365 ページ	Original Article
31	Sakai,T/Aoka ge,K/Miyoshi ,T/他	呼吸器外科	Tumor size exceeding 5 cm as a valid prognostic factor in all stages of thymic epithelial tumors.	Surgery today・2023年53 巻1号42-50ページ	Original Article
32	Onodera,K/S uzuki,J/Miyo shi,T/他	呼吸器外科	Comparison of various lung intersegmental plane identification methods.	General thoracic and cardiovascular surgery・ 2023年71巻2号90-97ペー ジ	Original Article
33	Konishi,Y/Ta ki,T/Nakai,T /他	呼吸器外科	Clinicopathological features and prognostic impact of dirty necrosis in metastatic lung cancers from the colon and rectum.	Cancer science・2023年 114巻5号2169-2177ペー ジ	Original Article

34	Kamigaichi,A /Aokage,K/I keno,T/他	呼吸器外科	Long-term survival outcomes after lobe-specific nodal dissection in patients with early non-small-cell lung cancer.	European journal of cardio-thoracic surgery・ 2023年63巻2号ezad016 ページ	Original Article
35	Ohtani- Kim,SJ/Taki, T/Tane,K/他	呼吸器外科	Efficacy of Preoperative Biopsy in Predicting the Newly Proposed Histologic Grade of Resected Lung Adenocarcinoma.	Modern pathology・2023年 36巻9号100209ページ	Original Article
36	Tanaka,T/U memura,S/Mi yoshi,T/他	呼吸器外科	The prognostic impact of a high number of peritumoral alveolar macrophages in neuroendocrine carcinoma in the lung.	Pathology international・ 2023年73巻10号497-508 ページ	Original Article
37	Udagawa,H/ Nilsson,MB/ Robichaux,JP /他	呼吸器内科	HER4 and EGFR Activate Cell Signaling in NRG1 Fusion-Driven Cancers: Implications for HER2-HER3-specific Versus Pan-HER Targeting Strategies.	Journal of thoracic oncology・2024年19巻1号 106-118ページ	Original Article
38	Kitagawa,S/Z enke,Y/Taki, T/他	呼吸器内科	Prognostic value of predominant subtype in pathological stage II-III lung adenocarcinoma with epidermal growth factor receptor mutation.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2024年188 巻107453ページ	Original Article
39	Sugimoto,A/ Matsumoto,S /Udagawa,H/ 他	呼吸器内科	A Large-Scale Prospective Concordance Study of Plasma- and Tissue-Based Next-Generation Targeted Sequencing for Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (LC-SCRUM-Liquid).	Clinical cancer research ・ 2023年29巻8号1506-1514 ページ	Original Article
40	Kagawa,Y/Na kai,T/Taki,T /他	呼吸器内科	Prognostic impact and gene expression analysis of peri-tumoral alveolar macrophage in resected lung adenocarcinoma.	Cancer science・2023年 114巻8号3423-3432ペー ジ	Original Article
41	Sakai,T/Mats umoto,S/Ued a,Y/他	呼吸器内科	Clinicogenomic Features and Targetable Mutations in NSCLCs Harboring BRAF Non-V600E Mutations: A Multi-Institutional Genomic Screening Study (LC-SCRUM-Asia).	Journal of thoracic oncology・2023年18巻11 号1538-1549ページ	Original Article
42	Goto,K/Goto ,Y/Kubo,T/ 他	呼吸器内科	Trastuzumab Deruxtecan in Patients With HER2-Mutant Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer: Primary Results From the Randomized, Phase II DESTINY-Lung02 Trial.	Journal of clinical oncology・2023年41巻31 号4852-4863ページ	Original Article
43	Tanaka,Y/Na kai,T/Suzuki, A/他	呼吸器内科	Clinicopathological significance of peritumoral alveolar macrophages in patients with resected early-stage lung squamous cell carcinoma.	Cancer immunology, immunotherapy・2023年72 巻7号2205-2215ページ	Review
44	Fujita,T/Sato ,K/Fujiwara, N/他	食道外科	Robot-assisted transcervical esophagectomy with a bilateral cervical approach for thoracic esophagectomy.	Surgical endoscopy・2024 年38巻3号1617-1625ペー ジ	Original Article
45	Fujita,T/Sato ,K/Fujiwara, N/他	食道外科	A novel imaging technology to assess tissue oxygen saturation and its correlation with indocyanine green in the gastric conduit during thoracic esophagectomy.	Surgery・2024年175巻2号 360-367ページ	Original Article

46	Fujita,T/Shigeno,T/Kajiya ma,D/他	食道外科	A novel device to assess the oxygen saturation and congestion status of the gastric conduit in thoracic esophagectomy.	BMC surgery・2024年24巻 1号17ページ	Original Article
47	Shigeno,T/Kajiyama,D/Sato, o,K/他	食道外科	The feasibility of post-photodynamic therapy salvage esophagectomy in patients with esophageal squamous cell carcinoma treated with definitive chemoradiotherapy.	Esophagus・2023年20巻4 号643-650ページ	Original Article
48	Fujita,T/Fujiwara,N/Sato, K/他	食道外科	[Management of Postoperative Infectious Complications After Thoracic Esophagectomy].	Kyobu geka. The Japanese journal of thoracic surgery・2023年76巻10号 898-903ページ	Original Article
49	Komatsu,M/Kitaguchi,D/ Yura,M/他	胃外科	Automatic surgical phase recognition-based skill assessment in laparoscopic distal gastrectomy using multicenter videos.	Gastric cancer・2024年27 巻1号187-196ページ	Original Article
50	Komatsu,M/Kinoshita,T/ Akimoto,E/ 他	胃外科	Advantages of robotic gastrectomy for overweight patients with gastric cancer: a comparison study of robotic gastrectomy and conventional laparoscopic gastrectomy.	Surgery today・2023年53 巻11号1260-1268ページ	Original Article
51	Kinoshita,T/ Komatsu,M	胃外科	Artificial Intelligence in Surgery and Its Potential for Gastric Cancer.	Journal of gastric cancer・ 2023年23巻3号400-409 ページ	Review
52	Kitaguchi,D/ Park,EJ/Baik, SH/他	大腸外科	Cytoreductive surgery plus hyperthermic intraperitoneal chemotherapy versus R0 resection for resectable colorectal cancer with peritoneal metastases and low peritoneal cancer index scores: a collaborative observational study from Korea and Japan.	International journal of surgery (London, England)・2024年110巻1号 45-52ページ	Original Article
53	Sasaki,S/Kitaguchi,D/Take naka,S/他	大腸外科	Machine learning-based Automatic Evaluation of Tissue Handling Skills in Laparoscopic Colorectal Surgery: A Retrospective Experimental Study.	Annals of surgery・2023年 278巻2号e250-e255ペー ジ	Original Article
54	Yoshioka,T/Hasegawa,H/ Ikeda,K/他	大腸外科	Efficacy of transperineal minimally invasive surgery with laparoscopic abdominoperineal excision for lower rectal cancer.	Surgery today・2023年53 巻4号490-498ページ	Original Article
55	Adachi,T/Kitaguchi,D/Ter amura,K/他	大腸外科	Single-center comparative study of short-term outcomes of transanal and laparoscopic total mesorectal excisions for low and middle rectal cancers.	Surgical endoscopy・2023 年37巻6号4698-4706ペー ジ	Original Article
56	Tsukada,Y/Rullier,E/Shirai shi,T/他	大腸外科	Comparison between preoperative chemoradiotherapy and lateral pelvic lymph node dissection in clinical T3 low rectal cancer without enlarged lateral lymph nodes.	Colorectal disease・2023年 25巻6号1153-1162ページ	Original Article
57	Narihiro,S/Kitaguchi,D/Ike da,K/他	大腸外科	Two-team lateral lymph node dissection assisted by the transanal approach for locally advanced lower rectal cancer: comparison with the conventional transabdominal approach.	Surgical endoscopy・2023 年37巻7号5256-5264ペー ジ	Original Article

58	Kojima,S/Kitaguchi,D/Igaki,T/他	大腸外科	Deep-learning-based semantic segmentation of autonomic nerves from laparoscopic images of colorectal surgery: an experimental pilot study.	International journal of surgery (London, England)・2023年109巻4号 813-820ページ	Original Article
59	Hasegawa,H/Takeshita,N/Hyon,W/他	大腸外科	Novel external reinforcement device for gastrointestinal anastomosis in an experimental study.	BMC surgery・2023年23巻1号121ページ	Original Article
60	Kitaguchi,D/Tsukada,Y/Ito,M/他	大腸外科	Survival outcomes following salvage abdominoperineal resection for recurrent and persistent anal squamous cell carcinoma.	European journal of surgical oncology・2023年49巻9号106929ページ	Original Article
61	Teramura,K/Kitaguchi,D/Matsuoka,H/他	大腸外科	Short-term outcomes following intracorporeal vs. extracorporeal anastomosis after laparoscopic right and left-sided colectomy: a propensity score-matched study.	International journal of surgery (London, England)・2023年109巻8号 2214-2219ページ	Original Article
62	Igaki,T/Kitaguchi,D/Matsuzaki,H/他	大腸外科	Automatic Surgical Skill Assessment System Based on Concordance of Standardized Surgical Field Development Using Artificial Intelligence.	JAMA surgery・2023年158巻8号e231131ページ	Original Article
63	Kitaguchi,D/Harai,Y/Kosugi,N/他	大腸外科	Artificial intelligence for the recognition of key anatomical structures in laparoscopic colorectal surgery.	The British journal of surgery・2023年110巻10号 1355-1358ページ	Original Article
64	Kitaguchi,D/Ito,M	大腸外科	Optimal anastomotic technique in rectal surgery to prevent anastomotic leakage.	Annals of coloproctology・2023年39巻2号97-105ページ	Review
65	Kitaguchi,D/Hasegawa,H/Ando,K/他	大腸外科	Can the Single-stapling Technique Following Intersphincteric Resection with Transanal Total Mesorectal Excision Become the New Standard Anastomosis?.	Journal of the anus, rectum and colon・2023年7巻4号232-240ページ	Review
66	Kitaguchi,D/Hasegawa,H/Ando,K/他	大腸外科	Transanal Total Mesorectal Excision for Rectal Cancer: Toward Standardization of the Surgical Technique.	Journal of the anus, rectum and colon・2023年7巻4号225-231ページ	Review
67	Takei,S/Tanaka,Y/Lin,YT/他	消化管内科	Multimomic molecular characterization of the response to combination immunotherapy in MSS/pMMR metastatic colorectal cancer.	Journal for immunotherapy of cancer・2024年12巻2号 e008210ページ	Original Article
68	Bando,H/Tsukada,Y/Kumagai,S/他	消化管内科	VOLTAGE-2: multicenter phase II study of nivolumab monotherapy in patients with mismatch repair-deficient resectable locally advanced rectal cancer.	Gastrointestinal Oncology・2024年3巻	Original Article
69	Shitara,K/Rhodes,SY/Wyrwicz,LS/他	消化管内科	Neoadjuvant and adjuvant pembrolizumab plus chemotherapy in locally advanced gastric or gastro-oesophageal cancer (KEYNOTE-585): an interim analysis of the multicentre, double-blind, randomised phase 3 study.	The Lancet. Oncology・2024年25巻2号212-224ページ	Original Article
70	Kawazoe,A/Yamamoto,N/Sugimoto,N/他	消化管内科	Phase II Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) in Combination with Nivolumab: Results from the Gastric Cancer Cohort.	Clinical cancer research・2024年30巻7号1264-1272ページ	Original Article

71	Shitara,K/Yamaguchi,K/Muro,K/他	消化管内科	Trastuzumab deruxtecan in patients with locally advanced or metastatic HER2-positive gastric cancer: a multicenter, open-label, expanded-access study.	International journal of clinical oncology・2024年29巻1号27-35ページ	Original Article
72	Shitara,K/Muro,K/Watanabe,J/他	消化管内科	Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer.	Nature medicine・2024年30巻3号730-739ページ	Original Article
73	Kotani,D/Takashima,A/Kato,T/他	消化管内科	Safety and Efficacy of Encorafenib, Binimetinib, and Cetuximab for BRAF(V600E)-Mutant Metastatic Colorectal Cancer: Results of the Japanese Expanded Access Program.	Clinical colorectal cancer・2024年23巻2号174-182.e6.ページ	Original Article
74	Aoki,Y/Nakamura,Y/Denda,T/他	消化管内科	Clinical Validation of Plasma-Based Genotyping for RAS and BRAF V600E Mutation in Metastatic Colorectal Cancer: SCRUM-Japan GOZILA Substudy.	JCO precision oncology・2023年7巻e2200688ページ	Original Article
75	Yoshino,T/Shi,Q/Misumi,T/他	消化管内科	A synthetic control arm for refractory metastatic colorectal cancer: the no placebo initiative.	Nature medicine・2023年29巻10号2389-2390ページ	Original Article
76	Mishima,S/Nakamura,Y/Tukachinsky,H/他	消化管内科	Validity and utility of blood tumor mutational burden (bTMB) is dependent on circulating tumor DNA (ctDNA) shed: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN.	The Journal of Liquid Biopsy・2023年1巻100003ページ	Original Article
77	Mishima,S/Naito,Y/Akagi,K/他	消化管内科	Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with high tumor mutational burden tumors.	International journal of clinical oncology・2023年28巻8号941-955ページ	Original Article
78	Mishima,S/Naito,Y/Akagi,K/他	消化管内科	Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with DNA mismatch repair deficient (dMMR) tumors, third edition.	International journal of clinical oncology・2023年28巻10号1237-1258ページ	Original Article
79	Shitara,K/Hirao,M/Iwasa,S/他	消化管内科	Phase I Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF): Results from the Advanced Gastric Cancer Expansion Cohort.	Clinical cancer research・2023年29巻8号1460-1467ページ	Original Article
80	Shitara,K/Kawazoe,A/Hirakawa,A/他	消化管内科	Phase 1 trial of zolbetuximab in Japanese patients with CLDN18.2+ gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma.	Cancer science・2023年114巻4号1606-1615ページ	Original Article
81	Shitara,K/Lordick,F/Bang,YJ/他	消化管内科	Zolbetuximab plus mFOLFOX6 in patients with CLDN18.2-positive, HER2-negative, untreated, locally advanced unresectable or metastatic gastric or gastro-oesophageal junction adenocarcinoma (SPOTLIGHT): a multicentre, randomised, double-blind, phase 3 trial.	Lancet (London, England)・2023年401巻10389号1655-1668ページ	Original Article

82	Shitara,K/George,B/Taieb,J/他	消化管内科	Effects of prior therapies on outcomes with trifluridine/tipiracil in patients with metastatic gastric/gastroesophageal junction cancer in a randomized phase III trial (TAGS).	Journal of cancer research and clinical oncology・2023年149巻11号9361-9374 ページ	Original Article
83	Yoshino,T/Di,Bartolomeo,M/Raghav,K/他	消化管内科	Final results of DESTINY-CRC01 investigating trastuzumab deruxtecan in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer.	Nature communications・2023年14巻1号3332ページ	Original Article
84	Shitara,K/Di,Bartolomeo,M/Mandala,M/他	消化管内科	Association between gene expression signatures and clinical outcomes of pembrolizumab versus paclitaxel in advanced gastric cancer: exploratory analysis from the randomized, controlled, phase III KEYNOTE-061 trial.	Journal for immunotherapy of cancer・2023年11巻6号e006920ページ	Original Article
85	Nakamura,Y/Mizuno,N/Sunakawa,Y/他	消化管内科	Tucatinib and Trastuzumab for Previously Treated Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Metastatic Biliary Tract Cancer (SGNTUC-019): A Phase II Basket Study.	Journal of clinical oncology・2023年41巻36号5569-5578ページ	Original Article
86	Mishima,S/Nakamura,Y/Tukachinsky,H/他	消化管内科	Validity and utility of blood tumor mutational burden (bTMB) is dependent on circulating tumor DNA (ctDNA) shed: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN.	The Journal of Liquid Biopsy・2023年11巻	Original Article
87	Shitara,K	消化管内科	Trastuzumab deruxtecan in previously treated HER2-positive gastric cancer: a plain language summary of the DESTINY-Gastric01 study.	Future oncology (London, England)・2024年20巻2号59-70ページ	Review
88	Yoshino,T/Hooda,N/Younan,D/他	消化管内科	A meta-analysis of efficacy and safety data from head-to-head first-line trials of epidermal growth factor receptor inhibitors versus bevacizumab in adult patients with RAS wild-type metastatic colorectal cancer by sidedness.	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・2024年202巻113975ページ	Review
89	Nakayama,I/Qi,C/Chen,Y/他	消化管内科	Claudin 18.2 as a novel therapeutic target.	Nature reviews. Clinical oncology・2024年21巻5号354-369ページ	Review
90	Shitara,K/Falcone,A/Fakih,MG/他	消化管内科	Efficacy and Safety of Trifluridine/Tipiracil-Containing Combinations in Colorectal Cancer and Other Advanced Solid Tumors: A Systematic Review.	The oncologist・2024年29巻5号e601-e615ページ	Others
91	Yoshino,T/Cervantes,A/Bando,H/他	消化管内科	Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the diagnosis, treatment and follow-up of patients with metastatic colorectal cancer.	ESMO open・2023年8巻3号101558ページ	Others
92	Sunakawa,H/Yoda,Y/Nonaka,S/他	消化管内視鏡科	Prospective multicenter trial of the cryoballoon ablation system for superficial esophageal squamous cell carcinoma on the post-endoscopic resection scar. A CRYO-SCAR study (EPOC1902).	Gastrointestinal endoscopy・2024年S0016-5107(24)00134-2ページ	Original Article
93	Kano,Y/Yamamoto,Y/Ikematsu,H/他	消化管内視鏡科	Investigation of vertical margin involvement in endoscopic resection for T1 colorectal cancer.	Digestive endoscopy・2024年36巻4号455-462ページ	Original Article

94	Takamatsu,T /Tanaka,H/Y ano,T/他	消化管内視鏡科	Near-Infrared Fluorescence Imaging Sensor with Laser Diffuser for Visualizing Photoimmunotherapy Effects under Endoscopy.	Sensors (Basel, Switzerland)・2024年24巻5 号1487ページ	Original Article
95	Furue,Y/Yod a,Y/Hori,K/ 他	消化管内視鏡科	Outcomes of repeated endoscopic submucosal dissection for superficial Esophageal squamous cell carcinoma on endoscopic resection scar.	Diseases of the esophagus・2024年 doae018ページ	Original Article
96	Minakata,N/S akashita,S/W akabayashi,M /他	消化管内視鏡科	Immunohistochemistry and oxygen saturation endoscopic imaging reveal hypoxia in submucosal invasive esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer medicine・2023年 12巻15号15809-15819 ページ	Original Article
97	Minakata,N/ Murano,T/W akabayashi,M /他	消化管内視鏡科	Hot snare polypectomy vs endoscopic mucosal resection using bipolar snare for intermediate size colorectal lesions: Propensity score matching.	World journal of gastroenterology・2023年 29巻23号3668-3677ペー ジ	Original Article
98	Nakajo,K/Nin omiya,Y/Kon do,H/他	消化管内視鏡科	Anatomical classification of pharyngeal and laryngeal endoscopic images using artificial intelligence.	Head & neck・2023年45巻 6号1549-1557ページ	Original Article
99	Furue,Y/Hori ,K/Tomioka, T/他	消化管内視鏡科	Clinical outcome of endoscopic-assisted transoral surgery for superficial cancer of pharyngo-esophageal junction.	Head & neck・2023年45巻 8号2098-2107ページ	Original Article
100	Mitsui,T/Mor i,A/Takamats u,T/他	消化管内視鏡科	Evaluating the identification of the extent of gastric cancer by over-1000 nm near-infrared hyperspectral imaging using surgical specimens.	Journal of biomedical optics・2023年28巻8号 86001ページ	Original Article
101	Yano,T	消化管内視鏡科	Impact and potential use of disposable single-use endoscopes.	Digestive endoscopy・2023 年35巻7号866-868ページ	Original Article
102	Mitsui,T/Sun akawa,H/Tak ayama,S/他	消化管内視鏡科	Development of a novel colorectal endoscopic submucosal dissection training model.	Endoscopy・2023年55巻S 01号E808-E810ページ	Original Article
103	Takamatsu,T /Endo,Y/Fuk ushima,R/他	消化管内視鏡科	Robotic endoscope with double-balloon and double-bend tube for colonoscopy.	Scientific reports・2023年 13巻1号10494ページ	Original Article
104	Kano,Y/Suna kawa,H/Naka jo,K/他	消化管内視鏡科	Efficacy of a novel self-assembling peptide gel for hemostasis in refractory neoplastic bleeding.	VideoGIE・2023年8巻8号 307-309ページ	Original Article
105	Minamide,T/I kematsu,H/K ajiwara,Y/他	消化管内視鏡科	Impact of Lesion Location on Recurrence After Resection of T1 Colorectal Cancer: Post Hoc Analysis of a Nationwide Multicenter Cohort Study.	Gastroenterology・2024年 166巻1号198-201.e3ペー ジ	Letter
106	Une,N/Kobay ashi,S/Kitagu chi,D/他	肝胆膵外科	Intraoperative artificial intelligence system identifying liver vessels in laparoscopic liver resection: a retrospective experimental study.	Surgical endoscopy・2024 年38巻2号1088-1095ペー ジ	Original Article

107	Kagoura,M/Kobayashi,S/Kojima,M/他	肝胆膵外科	Survival outcome of patient with pT1N0 biliary tract cancer treated with surgery alone.	European journal of surgical oncology・2024年50巻3号107980ページ	Original Article
108	Kobayashi,S/Bando,H/Taketomi,A/他	肝胆膵外科	NEXUS trial: a multicenter phase II clinical study evaluating the efficacy and safety of the perioperative use of encorafenib, binimetinib, and cetuximab in patients with previously untreated surgically resectable BRAF V600E mutant colorectal oligometastases.	BMC cancer・2023年23巻1号779ページ	Original Article
109	Kobayashi,S/Ikeda,M/Nakachi,K/他	肝胆膵外科	ASO Author Reflections: Characteristics of Surgery for Biliary Tract Cancer that Should be Considered During the Design of Future Clinical Trials.	Annals of surgical oncology・2023年30巻12号7384-7385ページ	Original Article
110	Kobayashi,S/Ikeda,M/Nakachi,K/他	肝胆膵外科	A Multicenter Survey on Eligibility for a Randomized Phase III Trial of Adjuvant Chemotherapy for Resected Biliary Tract Cancer (JCOG1202, ASCOT).	Annals of surgical oncology・2023年30巻12号7331-7337ページ	Original Article
111	Igata,Y/Kojima,M/Suzuki,T/他	肝胆膵外科	Relationships between physical and immunological tumor microenvironment in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Cancer science・2023年114巻9号3783-3792ページ	Original Article
112	Kudo,M/Gotohda,N/Sugimoto,M/他	肝胆膵外科	Liver functional assessment using time-associated change in the liver-to-spleen signal intensity ratio on enhanced magnetic resonance imaging: a retrospective study.	BMC surgery・2023年23巻1号179ページ	Original Article
113	Kobayashi,S/Ikeda,M/Nakachi,K/他	肝胆膵外科	Correction: A Multicenter Survey on Eligibility for a Randomized Phase III Trial of Adjuvant Chemotherapy for Resected Biliary Tract Cancer (JCOG1202, ASCOT).	Annals of surgical oncology・2023年30巻11号6651ページ	Original Article
114	Gotohda,N/Nishida,T/Sato,S/他	肝胆膵外科	Re-appraisal of the universal definition of tumor rupture among patients with high-risk gastrointestinal stromal tumors.	Annals of gastroenterological surgery・2023年7巻6号1021-1031ページ	Original Article
115	Ikeda,M/Yamashita,T/Ogasawara,S/他	肝胆膵内科	Multicenter Phase II Trial of Lenvatinib plus Hepatic Intra-Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin for Advanced Hepatocellular Carcinoma: LEOPARD.	Liver cancer・2024年13巻2号193-202ページ	Original Article
116	Inoue,K/Fukushi,K/Yamaguchi,S/他	肝胆膵内科	Treatment outcomes of gemcitabine plus nab-paclitaxel in pancreatic cancer patients with malignant ascites.	Pancreatology・2024年24巻4号616-623ページ	Original Article
117	Shibuki,T/Fukushi,K/Inoue,K/他	肝胆膵内科	Covered self-expandable metallic stent placement for tumor bleeding from duodenal invasion in patients with unresectable pancreatic cancer.	DEN open・2024年4巻1号e361ページ	Original Article
118	Imaoka,H/Ikeda,M/Nomura,S/他	肝胆膵内科	Development of a nomogram to predict survival in advanced biliary tract cancer.	Scientific reports・2023年13巻1号21548ページ	Original Article

119	Satake,T/Kondo,S/Tanabe,N/他	肝胆膵内科	Pathogenic Germline Variants in BRCA1/2 and p53 Identified by Real-world Comprehensive Cancer Genome Profiling Tests in Asian Patients.	Cancer research communications・2023年3巻11号2302-2311ページ	Original Article
120	Shibuki,T/Okumura,K/Sekine,M/他	肝胆膵内科	Covered self-expandable metallic stents versus plastic stents for endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy in patients with malignant biliary obstruction.	Clinical endoscopy・2023年56巻6号802-811ページ	Original Article
121	Imaoka,H/Ikeda,M/Umemoto,K/他	肝胆膵内科	Comprehensive review of undifferentiated carcinoma of the pancreas: from epidemiology to treatment.	Japanese journal of clinical oncology・2023年53巻9号764-773ページ	Original Article
122	Satake,T/Shibuki,T/Watanabe,K/他	肝胆膵内科	Case Report: Atezolizumab plus bevacizumab for combined hepatocellular-cholangiocarcinoma.	Frontiers in oncology・2023年13巻1234113ページ	Original Article
123	Mitsunaga,S/Ikeda,M/Imaoka,H/他	肝胆膵内科	Fibroblast inhibition by tocilizumab enabled gemcitabine/nab-paclitaxel rechallenge for pancreatic cancer.	Cancer science・2023年114巻10号4006-4019ページ	Original Article
124	Shibuki,T/Sasaki,M/Yamaguchi,S/他	肝胆膵内科	Palliative radiotherapy for tumor bleeding in patients with unresectable pancreatic cancer: a single-center retrospective study.	Radiation oncology (London, England)・2023年18巻1号178ページ	Original Article
125	Kataoka,M/Yokoyama,M/Waseda,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Longitudinal deterioration in lower urinary tract symptoms after artificial urinary sphincter implantation in patients with a history of pelvic radiation therapy.	Lower urinary tract symptoms・2024年16巻1号e12507ページ	Original Article
126	Yajima,S/Nakanishi,Y/Ogasawara,RA/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Housework participation and mortality in Japanese male patients undergoing cancer surgery: A propensity score-matched study.	Preventive medicine・2024年180巻107896ページ	Original Article
127	Nakanishi,Y/Hirose,K/Yasujima,R/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Impact of perinephric fat volume and the Mayo Adhesive Probability score on time to clamping in robot-assisted partial nephrectomy.	Journal of robotic surgery・2023年17巻4号1485-1491ページ	Original Article
128	Yajima,S/Nakanishi,Y/Takenaka,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	A case report of simultaneous robot-assisted nephroureterectomy and robot-assisted total laparoscopic hysterectomy.	IJU case reports・2023年6巻3号190-193ページ	Original Article
129	Yajima,S/Fukushima,H/Oda,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	The significance of SARC-F scores in predicting postoperative outcomes of older adults undergoing elective major surgery for urologic cancer.	Clinical nutrition (Edinburgh, Scotland)・2023年42巻9号1537-1544ページ	Original Article
130	Yajima,S/Nakanishi,Y/Hirose,K/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Simultaneous robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy and inguinal hernia repair using a polypropylene mesh: Report of two cases.	IJU case reports・2023年6巻5号318-320ページ	Original Article
131	Yajima,S/Nakanishi,Y/Hirose,K/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Use of a lockable pigtail catheter (Cook Dawson-Mueller Multipurpose Drainage Catheter) for nephrostomy reduces the risk of slippage of the catheter.	Surgical Practice・2023年28巻1号27-31ページ	Original Article

132	Yajima,S/Nakanishi,Y/Matsumoto,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Ability of clock drawing errors on Mini-Cog test to predict development of delirium after major urological cancer surgery.	Current Urology・2023年30巻	Original Article
133	Yajima,S/Nakanishi,Y/Matsumoto,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Repair Technique of Indirect Inguinal Hernia Without Mesh Concomitant with Radical Retropubic Prostatectomy: a Report of Three Cases.	Indian Journal of Surgery・2024年	Original Article
134	Ogasawara,R A/Okubo,N/Nakanishi,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Laparoscopic total pelvic exenteration combined with transanal total mesorectal excision for locally advanced prostate cancer with rectal infiltration.	IJU case reports・2024年7巻1号83-86ページ	Case report
135	Yajima,S/Masuda,H	泌尿器・後腹膜腫瘍科	The significance of G8 and other geriatric assessments in urologic cancer management: A comprehensive review.	International journal of urology・2024年31巻6号607-615ページ	Review
136	Komazaki,H/Takahashi,K/Tanabe,H/他	婦人科	A retrospective study of dose-dense paclitaxel and carboplatin plus bevacizumab as first-line treatment of advanced epithelial ovarian cancer.	Journal of gynecologic oncology・2024年	Original Article
137	Odajima,S/Tanabe,H/Koike,Y/他	婦人科	Short- and long-term morbidity of total parietal peritonectomy for advanced ovarian cancer.	International journal of gynecological cancer・2023年33巻11号1771-1777ページ	Original Article
138	Harada,T/Tsujii,T/Tatematsu,N/他	リハビリテーション科	The Postoperative Recovery Course of Skeletal Muscle Mass in Older Esophageal Cancer Patients.	European Journal of Cancer Care・2023年6655999ページ	Original Article
139	Harada,T/Tsujii,T/Tanaka,M/他	リハビリテーション科	Priority of the basic and instrumental activities of daily living in older patients with cancer prescribed rehabilitation: a cross-sectional survey.	Supportive care in cancer・2023年31巻8号503ページ	Original Article
140	Izutsu,K/Kumode,T/Yudate,J/他	血液腫瘍科	Subcutaneous epcoritamab monotherapy in Japanese adults with relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma.	Cancer science・2023年114巻12号4643-4653ページ	Original Article
141	Arai,H/Matsui,H/Chi,S/他	血液腫瘍科	Germline Variants and Characteristic Features of Hereditary Hematological Malignancy Syndrome.	International journal of molecular sciences・2024年25巻1号652ページ	Review
142	Hashimoto,T/Nakamura,Y/Oki,E/他	医薬品開発推進部門	Bridging horizons beyond CIRCULATE-Japan: a new paradigm in molecular residual disease detection via whole genome sequencing-based circulating tumor DNA assay.	International journal of clinical oncology・2024年29巻5号495-511ページ	Review
143	Osawa,T/Tajiri,K/Ieda,M/他	循環器科	Clinical outcomes of takotsubo syndrome in patients with cancer: a systematic review and meta-analysis.	Frontiers in cardiovascular medicine・2023年10巻1244808ページ	Original Article
144	Osawa,T/Tajiri,K/Hoshi,T/他	循環器科	Successful Treatment of Malignant Lymphoma Following Transcatheter Aortic Valve Replacement: A Case Report.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2024年	Case report

145	Tajiri,K	循環器科	Immune Checkpoint Inhibitor Myotoxicities: An Autoimmune Perspective.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2024年	Others
146	Osawa,T/Tajiri,K	循環器科	Neoplastic Cardiac Tamponade.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2023年62巻17号 2447-2448ページ	Others
147	Ishizuka,Y/Tajiri,K	循環器科	The Need for Next-generation Anticoagulation Therapies for Cancer-associated Venous Thromboembolism.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2024年	Others
148	Ishida,A/Inokuchi,Y/Hirata,M/他	緩和医療科	A case of an unreported point mutation in promoter 1B of the adenomatous polyposis coli gene, which is responsible for gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach.	Clinical journal of gastroenterology・2024年	Case report
149	Noda,S/Yamaguchi,J/Kosugi,K/他	緩和医療科	Peppermint Inhalation Therapy for Persistent Hiccups in Terminally Ill Cancer Patient: A Case Study.	Journal of pain and symptom management・2024年67巻5号e503-e505ページ	Letter
150	Kubo,E/Harada,M/Ishizuka,K/他	緩和医療科	Letter to the Editor: Three Cases of Pain Treatment in Cancer Patients Using an Alternating Magnetic Field Therapy Device.	Journal of palliative medicine・2023年26巻11号 1444-1445ページ	Letter
151	Hiyama,T/Miyasaka,Y/Kuno,H/他	放射線診断科	Posttreatment Head and Neck Cancer Imaging: Anatomic Considerations Based on Cancer Subsites.	Radiographics・2024年44巻3号e230099ページ	Original Article
152	Ito,K/Yamaguchi,M/Semba,T/他	放射線診断科	Amelioration of Tumor-promoting Microenvironment via Vascular Remodeling and CAF Suppression Using E7130: Biomarker Analysis by Multimodal Imaging Modalities.	Molecular cancer therapeutics・2024年23巻2号235-247ページ	Original Article
153	Sasaki,T/Kuno,H/Hiyama,T/他	放射線診断科	2021 WHO Classification of Lung Cancer: Molecular Biology Research and Radiologic-Pathologic Correlation.	Radiographics・2024年44巻3号e230136ページ	Original Article
154	Miyasaka,Y/Hiyama,T/Kuno,H/他	放射線診断科	Characteristic imaging findings in a patient with chronic expanding hematoma on the floor of the mouth.	International cancer conference journal・2023年12巻3号185-189ページ	Original Article
155	Oda,S/Kuno,H/Hiyama,T/他	放射線診断科	Computed tomography-based radiomic analysis for predicting pathological response and prognosis after neoadjuvant chemotherapy in patients with locally advanced esophageal cancer.	Abdominal radiology (New York)・2023年48巻8号 2503-2513ページ	Original Article
156	Masuoka,S/Hiyama,T/Kuno,H/他	放射線診断科	Computed tomography findings of hepatobiliary systems in patients with immune checkpoint inhibitor-induced liver injury.	Abdominal radiology (New York)・2023年48巻9号 3012-3021ページ	Original Article
157	Nakama,R/Arai,Y/Horii,T/他	放射線診断科	Computed tomography-guided percutaneous needle biopsy for middle mediastinal tumors with retroaortic paravertebral approach: A case report.	Radiology case reports・2024年19巻4号1440-1444ページ	Case report

158	Hiyama,T/Kuno,H	放射線診断科	Letter to Editor ”Dual-energy CT for the detection of skull base invasion in nasopharyngeal carcinoma: comparison of simulated single-energy CT and MRI”.	Insights into imaging・2023年14巻1号218ページ	Letter
159	Oda,S/Kuno,H/Hiyama,T/他	放射線診断科	Reply to letter to the editor: Computed tomography-based radiomic analysis for predicting pathological response and prognosis after neoadjuvant chemotherapy in patients with locally advanced esophageal cancer.	Abdominal radiology (New York)・2023年48巻9号3035-3037ページ	Letter
160	Tomizawa,K/Motegi,A/Oyoshi,H/他	放射線治療科	Accelerated three-dimensional conformal radiotherapy for early-stage glottic cancer in reducing dose to the internal carotid artery and pharyngeal constrictor muscles.	Head & neck・2024年46巻2号239-248ページ	Original Article
161	Fujisawa,T/Motegi,A/Hirata,H/他	放射線治療科	Long-term outcomes of patients with oral cavity cancer receiving postoperative radiotherapy after salvage neck dissection for cervical lymph node recurrence.	Head & neck・2024年46巻3号541-551ページ	Original Article
162	Oyoshi,H/Hirata,H/Hirano,Y/他	放射線治療科	Prognostic impact of EGFR/ALK alterations in leptomeningeal metastasis from lung adenocarcinoma treated with whole-brain radiotherapy.	Clinical & experimental metastasis・2023年40巻5号407-413ページ	Original Article
163	Oyoshi,H/Du,J/Sakai,SA/他	放射線治療科	Comprehensive single-cell analysis demonstrates radiotherapy-induced infiltration of macrophages expressing immunosuppressive genes into tumor in esophageal squamous cell carcinoma.	Science advances・2023年9巻50号eadh9069ページ	Original Article
164	Nakamura,M/Kageyama,SI/Hirata,H/他	放射線治療科	Detection of Pretreatment Circulating Tumor DNA Predicts Recurrence after High-Dose Proton Beam Therapy for Early-Stage Non-Small Cell Lung Cancer.	International journal of radiation oncology, biology, physics・2023年116巻5号1085-1090ページ	Original Article
165	Akimoto,T/Aoyama,H/Chua,MLK/他	放射線治療科	Challenges and Opportunities With the Use of Hypofractionated Radiation Therapy in Cancer Care: Regional Perspectives From South Korea, Japan, Singapore, and Australia.	Advances in radiation oncology・2023年8巻6号101291ページ	Original Article
166	Adachi,M/Taki,T/Sakamoto,N/他	病理・臨床検査科	Extracting interpretable features for pathologists using weakly supervised learning to predict p16 expression in oropharyngeal cancer.	Scientific reports・2024年14巻1号4506ページ	Original Article
167	Kojima,M/Yokota,M/Yanagisawa,N/他	病理・臨床検査科	Assessment of Elastic Laminal Invasion Contributes to an Objective pT3 Subclassification in Colon Cancer.	The American journal of surgical pathology・2023年47巻10号1122-1133ページ	Original Article
168	Adachi,M/Aoyama,N/Kojima,M/他	病理・臨床検査科	The area of residual tumor predicts esophageal squamous cell carcinoma prognosis following neoadjuvant chemotherapy.	Journal of cancer research and clinical oncology・2023年149巻8号4663-4673ページ	Original Article
169	Kondo,R/Sakamoto,N/Harada,K/他	病理・臨床検査科	Cancer-associated fibroblast-dependent and -independent invasion of gastric cancer cells.	Journal of cancer research and clinical oncology・2023年149巻8号5309-5319ページ	Original Article

170	Sakashita,S/S akamoto,N/K ojima,M/他	病理・臨床検査科	Requirement of image standardization for AI-based macroscopic diagnosis for surgical specimens of gastric cancer.	Journal of cancer research and clinical oncology・2023 年149巻9号6467-6477 ページ	Original Article
171	Doi,T/Yama moto,N/Ohk ubo,S/他	先端医療科	Pimitespib for the treatment of advanced gastrointestinal stromal tumors and other tumors.	Future oncology (London, England)・2024年20巻9号 507-519ページ	Original Article
172	Doi,T/Takah ashi,S/Aoki, D/他	先端医療科	A first-in-human phase I study of TAS- 117, an allosteric AKT inhibitor, in patients with advanced solid tumors.	Cancer chemotherapy and pharmacology・2024年93 巻6号605-616ページ	Original Article
173	Koganemaru, S/Fuchigami, H/Yamashita, H/他	先端医療科	Quantitative Analysis of the Concentration of Trifluridine in Tumor Hypoxic Regions Using a Novel Platform Combining Functional Endoscopy and Mass Spectrometry.	Clinical pharmacology and therapeutics・2024年115巻 1号62-70ページ	Original Article
174	Kuboki,Y/Fa kih,M/Strickl er,J/他	先端医療科	Sotorasib with panitumumab in chemotherapy-refractory KRAS(G12C)- mutated colorectal cancer: a phase 1b trial.	Nature medicine・2024年 30巻1号265-270ページ	Original Article
175	Kuboki,Y/Te razawa,T/Ma suishi,T/他	先端医療科	Trifluridine/tipiracil+bevacizumab (BEV) vs. fluoropyrimidine-irinotecan+BEV as second-line therapy for metastatic colorectal cancer: a randomised noninferiority trial.	British journal of cancer・ 2023年128巻10号1897- 1905ページ	Original Article
176	Doi,T/Matsu bara,N/Naito, Y/他	先端医療科	First-in-human study of E7130 (a tumor microenvironment-ameliorating microtubule inhibitor) in patients with advanced solid tumors: Primary results of the dose-escalation part.	Cancer・2023年129巻15号 2348-2359ページ	Original Article
177	Yuda,J/Will, C/Phillips,D C/他	先端医療科	Selective MCL-1 inhibitor ABBV-467 is efficacious in tumor models but is associated with cardiac troponin increases in patients.	Communications medicine・2023年3巻1号 154ページ	Original Article
178	Okinaka,K/A keda,Y/Inam oto,Y/他	感染症科	Immunogenicity of three versus four doses of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine followed by 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine in allogeneic haematopoietic stem cell transplantation recipients: a multicentre, randomized controlled trial.	Clinical microbiology and infection・2023年29巻4号 482-489ページ	Original Article
179	Okinaka,K/In oue,Y/Uchida ,N/他	感染症科	Clinical characteristics and risk factors of pneumococcal diseases in recipients of allogeneic hematopoietic stem cell transplants in the late phase: A retrospective registry study.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy・ 2023年29巻7号726-730 ページ	Others
180	Takahashi,A/ Namikawa,K/ Ogata,D/他	皮膚腫瘍科	Updated analysis of nivolumab and ipilimumab combination therapy in Japanese patients with advanced melanoma.	The Journal of dermatology・2023年50巻4 号525-535ページ	Original Article

181	Okunaka,M/ Kotani,D/Fujiwara,H/他	薬剤部	Prognosis of patients with residual pathological disease after neoadjuvant docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil therapy and surgery for esophageal squamous cell carcinoma: a retrospective cohort study.	Therapeutic advances in medical oncology・2024年16巻17588359241229400ページ	Original Article
182	Okunaka,M/ Kotani,D/Mishima,S/他	薬剤部	Potential Efficacy of Shiunko for Anti-Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) Monoclonal Antibody-Induced Skin Fissure: A Single Institutional Case Series.	Integrative cancer therapies・2024年23巻15347354231225900ページ	Original Article
183	Shibutani,Y/ Tajiri,K/Suzuki,S/他	薬剤部	Association between baseline blood pressure and the incidence of lenvatinib-induced hypertension in patients with thyroid cancer.	Cancer medicine・2023年12巻22号20773-20782ページ	Original Article
184	Baba,K/Kawamoto,M/Mamishin,K/他	薬剤部	The impact of the COVID-19 pandemic on perioperative chemotherapy for breast cancer.	Cancer medicine・2023年12巻11号12095-12105ページ	Original Article
185	Nakamura,H/ Kawazoe,A/ Okunaka,M/ 他	薬剤部	Safety and Efficacy of Trifluridine/Tipiracil Administered After Anti-PD-1 Therapies for Advanced Gastric Cancer.	In vivo (Athens, Greece)・2023年37巻4号1729-1734ページ	Original Article
186	Uozumi,S/Enokida,T/Suzuki,S/他	薬剤部	Efficacy and safety of adapalene gel as a reactive treatment for cetuximab-induced skin toxicity in recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck: A historical cohort comparison study.	Journal of oncology pharmacy practice・2024年30巻2号295-303ページ	Original Article
187	Okunaka,M/ Kawazoe,A/Nakamura,H/ 他	薬剤部	Efficacy and safety of trifluridine/tipiracil plus ramucirumab in comparison with trifluridine/tipiracil monotherapy for patients with advanced gastric cancer-single institutional experience.	Gastric cancer・2023年26巻6号1030-1039ページ	Original Article
188	Ikenaga,N/Hashimoto,T/ Mizusawa,J/ 他	医薬品開発推進部門	A multi-institutional randomized phase III study comparing minimally invasive distal pancreatectomy versus open distal pancreatectomy for pancreatic cancer; Japan Clinical Oncology Group study JCOG2202 (LAPAN study).	BMC cancer・2024年24巻1号231ページ	Original Article
189	Hashimoto,T/ Nakamura,Y/ Mishima,S/ 他	医薬品開発推進部門	Whole-transcriptome sequencing in advanced gastric or gastroesophageal cancer: A deep dive into its clinical potential.	Cancer science・2024年115巻5号1622-1633ページ	Original Article
190	Hashimoto,T/ Otsu,S/Hironaka,S/他	医薬品開発推進部門	Phase II biomarker identification study of anti-VEGF agents with FOLFIRI for pretreated metastatic colorectal cancer.	Future oncology (London, England)・2023年19巻23号1593-1600ページ	Original Article

191	Hashimoto,T /Tsukada,Y/I to,M/他	医薬品開発推進部門	Utility of circulating tumour DNA for prognosis and prediction of therapeutic effect in locally recurrent rectal cancer: study protocol for a multi-institutional, prospective observational study (JCOG1801A1, CAP-LR study).	BMJ open・2023年13巻8号 e073217ページ	Original Article
192	Hashimoto,T /Maruyama,S /Takii,Y/他	医薬品開発推進部門	A randomized phase II study comparing preoperative mFOLFOX6 versus FOLFOXIRI for locally advanced colon cancer: JCOG2006.	Future oncology (London, England)・2023年19巻28号 1897-1904ページ	Original Article
193	Bando,H, Tajima,E/Aoy agi,Y, Ng,D/Mizugu chi,K/他	医薬品開発推進部門	The emerging role of real-world data in oncology care in Japan.	ESMO Real World Data and Digital Oncology・ 2023年2巻	Original Article
194	Bando,H/Oht su,A/Yoshino ,T/他	医薬品開発推進部門	Therapeutic landscape and future direction of metastatic colorectal cancer.	Nature reviews. Gastroenterology & hepatology・2023年20巻5 号306-322ページ	Original Article
195	Hashimoto,T /Nakayama,I/ Ohashi,M/他	医薬品開発推進部門	Randomized phase II study comparing neoadjuvant 5-fluorouracil/oxaliplatin/docetaxel versus docetaxel/oxaliplatin/S-1 for patients with type 4 or large type 3 gastric cancer.	Future oncology (London, England)・2023年19巻32号 2147-2155ページ	Original Article
196	Hashimoto,T /Tsukamoto, S/Murofushi, K/他	医薬品開発推進部門	Total neoadjuvant therapy followed by a watch-and-wait strategy for patients with rectal cancer (TOWARd): protocol for single-arm phase II/III confirmatory trial (JCOG2010).	BJs open・2023年7巻6号 zrad110ページ	Original Article
197	Takeda,Y/Mi sumi,T/Band o,H/他	医薬品開発推進部門	ARCAD-Asia initiative: leveraging yesterday's data for tomorrow.	ESMO Gastrointestinal Oncology・2023年2巻	Original Article
198	Shibuki,T/Sa saki,M/Yama guchi,S/他	医薬品開発推進部門	Correction: Palliative radiotherapy for tumor bleeding in patients with unresectable pancreatic cancer: a single-center retrospective study.	Radiation oncology (London, England)・2023年 18巻1号199ページ	Original Article
199	Imai,M/Naka mura,Y/Dend a,T/他	医薬品開発推進部門	Association of PD-L1 and PD-L2 expression and tumor-infiltrating lymphocytes in BRAF V600E-mutated metastatic colorectal cancer: GI-SCREEN post-hoc analysis.	ESMO Gastrointestinal Oncology・2023年2巻 45521ページ	Original Article
200	Bando,H/Ya maguchi,K/M itani,S/他	医薬品開発推進部門	Japanese Society of Medical Oncology clinical guidelines: Molecular testing for colorectal cancer treatment, 5th edition.	Cancer science・2024年 115巻3号1014-1021ペー ジ	Others
201	Takeshita,N/ Sakamoto,S/ Kitaguchi,D/ 他	医療機器開発推進部門	Deep Learning-Based Seminal Vesicle and Vas Deferens Recognition in the Posterior Approach of Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	Urology・2023年173巻98- 103ページ	Original Article
202	Kitaguchi,D/ Teramura,K/ Matsuzaki,H/ 他	医療機器開発推進部門	Automatic purse-string suture skill assessment in transanal total mesorectal excision using deep learning-based video analysis.	BJs open・2023年7巻2号 zrac176ページ	Original Article

203	Hasegawa,H/ Takeshita,N/I to,M/他	医療機器開発推進部門	Computer Aided Surgery in the Gastrointestinal Field.	Journal of Japan Society of Computer Aided Surgery・ 2023年25巻2号56-60ページ	Original Article
204	Ryu,K/Kitagu chi,D/Nakaji ma,K/他	医療機器開発推進部門	Deep learning-based vessel automatic recognition for laparoscopic right hemicolectomy.	Surgical endoscopy・2024 年38巻1号171-178ページ	Original Article

計204件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 < 研究倫理審査委員会標準業務手順書 > ・ 委員会の運用規定 ・ 審査種別ごとの手順 など < 対象指針 > ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 ・ ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 臨床研究を含む当センターの研究に携わる者のCOI管理手順は、COI管理規程及びCOI委員会運営規程に定められている。（現在、両規程の改訂作業を進行中であり、以下は現行規程の内容・条文に沿って記述する。なお、両規程の改訂作業はCOI管理等の手順や運用を改めるものではない。）	

1. 管理対象

管理対象については、COI管理規程第3条に定められており、臨床研究を行おうとする研究者が該当する。

2. 申告

研究者は、COI管理規程第4条により年一回の定期申告及びCOI状況の変動の都度申告を行う。

3. COI委員会

COI委員会は、COI管理規程第6条により、研究者より申告のあったCOIにつき、審査を行い、理事長に対し、意見等を述べるとともに、研究倫理審査委員会等各種倫理審査委員会委員長からの研究者のCOIの申告内容、審査結果等の開示請求があれば、これに応じることとされ、さらにCOI委員会運営規程第5条に基づき、COI委員会委員長は、研究倫理審査委員会委員長等より依頼された審査の結果については、依頼元である研究倫理審査委員会委員長等に報告することとより具体的に定められている。

4. 指導・管理

理事長は、COI委員会の意見に基づき、COIに関し、改善が必要と判断する場合、当該研究者に対し、当該研究への参加の取りやめまでも含む改善に向けた指導・管理を行う。

5. 臨床研究法対応

COI管理規定第5条により、臨床研究法施行規則第21条第2項（いわゆる「事実確認」）に関する事務権限を理事長から生命倫理部COI管理室に委譲している。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年1回（合議）
※令和5年度書面審査件数
：医学系指針対象研究192
件（2366名）、医師主導治
験123件（2488名）

（注）前年度の実績を記載すること。

（3）臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・研修の主な内容 2023年5月15日開催：遠矢和希「被験者保護の基礎」 2023年6月26日開催：一家綱邦「医学系指針改正の解説」 2023年12月19日開催：遠矢和希「指針・ガイドラインにおける研究不正防止対応（研究公正）」	

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1) 各診療科および診療領域のローテーションと研修指導医による指導ならびに評価。 #評価票の提出は必須。
2) Tumor boardおよび臓器別のカンファレンスへの参加と討議。下記に主なカンファレンスを記載する。 頭頸部カンファレンス、食道カンファレンス、消化管術前カンファレンス、胃癌カンファレンス、Phase Iカンファレンス、呼吸器カンファレンス、呼吸器術前カンファレンス、チェストカンファレンス、泌尿器カンファレンス。サルコーマカンファレンス、乳腺病理カンファレンス、肝胆膵画像カンファレンス、リンパ腫カンファレンス、など。
3) 教育および包括的がん臨床研修を目的としたカンファレンスへの参加。 臨床研究セミナー、リサーチカンファレンス、TRプロジェクトカンファレンス、多地点合同メディカルカンファレンス、MRC(Medical Research Conference)、MOC(Medical Oncology Conference)など。
4) 交流研修：院外施設または研究所への研修（研修指導医の許可と指導医の管理下での研究が原則）

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	124	人
-------------	-----	---

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松浦 一登	耳鼻咽喉科	頭頸部外科長	32年	
田原 信	内科	頭頸部内科長	27年	
東野 琢也	形成外科	形成外科長	24年	
大西 達也	外科	乳腺外科長	19年	サブスペシャリティ 乳腺外科
向原 徹	内科	腫瘍内科長	27年	
坪井 正博	外科	呼吸器外科長	36年	サブスペシャリティ 呼吸器外科
後藤 功一	内科	呼吸器内科長	33年	
藤田 武郎	外科	食道外科長	22年	
木下 敬弘	外科	胃外科長	29年	
伊藤 雅昭	外科	大腸外科長	30年	
設楽 紘平	内科	消化管内科長	21年	
矢野 友規	内科	消化管内視鏡科長	26年	
後藤田 直人	外科	肝胆膵外科長	25年	
池田 公史	内科	肝胆膵内科長	29年	
増田 均	泌尿器科	泌尿器・後腹膜腫瘍科長	33年	
田部 宏	婦人科	婦人科長	27年	
中谷 文彦	整形外科	骨軟部腫瘍科長	20年	
林 隆一	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	38年	
南 陽介	内科	血液腫瘍科長	27年	

細野 亜古	小児科	小児腫瘍科医長	27年	サブスペシャリティ 小児科
小西 哲仁	歯科	歯科医長	25年	
橋本 学	麻酔科	麻酔科長	25年	
芹田 良平	集中治療科	集中治療科長	33年	
三浦 智史	内科	緩和医療科長	19年	
小川 朝生	精神科	精神腫瘍科長	24年	
小林 達伺	放射線科	放射線診断科長	30年	サブスペシャリティ 放射線
全田 貞幹	放射線科	放射線治療科長	23年	
石井 源一郎	病理診断科	病理・臨床検査科長	33年	
土井 俊彦	内科	先端医療科	34年	
成田 善孝	脳神経外科	脳脊髄腫瘍科長	32年	
相原 由季子	眼科	眼科医師	18年	
高橋 聡	皮膚科	皮膚腫瘍科長	23年	
内藤 陽一	内科	総合内科医長	23年	
松本 慎吾	内科	呼吸器内科医長	26年	サブスペシャリティ 呼吸器内科
小島 隆嗣	内科	消化管内科医長	24年	サブスペシャリティ 腫瘍内科
小西 大	外科	肝胆膵外科医師	39年	サブスペシャリティ 消化器外科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
○ 認定看護師教育課程（がん化学療法看護） ・ 研修の期間・実施回数 2023年9月28日～2024年3月22日（600時間） ・ 研修の参加人数 がん化学療法看護8名 ○ がん看護研修会（コミュニケーションスキルファシリテーター養成研修） ・ 研修の期間・実施回数 2023年12月1日～2日 ・ 研修の対象施設・参加人数 2017-2019年度までに当施設で開催したがん看護研修に参加した施設および中央病院開催 NURSEのコミュニケーションスキル研修受講施設の中から6施設12名（1施設2名） ○ 病院看護師のための認知症対応力向上研修 ・ 研修の期間 2023年10月20日～21日 ・ 研修の対象施設・参加人数 関東近郊のがん診療連携拠点病院・NC・NHO看護師 56名（22施設） ○ がん化学療法看護認定看護師教育課程実習（国立がん研究センター東病院） 2024年1月15日～2月14日 2名 ○ がん看護専門看護師 実習 2023年4月17日～28日 青森県立保健大学 1名 2023年5月15日～5月26日 関西医科大学 1名 2023年5月22日～6月16日 埼玉県立大学 1名 2023年7月3日～8月25日 慈恵会医科大学 2名 2023年11月27日～12月8日 岩手県立大学 1名 ○ 看護管理学 修士課程 実習 2023年12月4日～8日 北海道医療大学 1名 ○ 薬剤師レジデントに対する研修（がん医療に精通した薬剤師を養成） 研修の期間・実施回数：3年間

研修の参加人数：1年目6名、2年目5名、3年目6名、計17名

○がん専門修練薬剤師に対する研修（臨床研究にも積極的に関わる薬剤師を養成）

研修の期間・実施回数：2年間

研修の参加人数：1年目1名

○医薬品医療機器総合機構（PMDA）職員に対する薬剤部長期研修（PMDA職員（薬剤師）が臨床現場を長期に実地研修）

研修の期間・実施回数：10か月間

研修の参加人数：令和5年度は該当なし

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 ISO 15189内部監査監査員研修会

内部監査の目的・有効性の評価・是正処置・リスクマネジメントについてJAB上席主任
審査員の下田勝二氏からの講演を視聴

・研修の期間・実施回数 2023/10/20～2023/11/15（web開催）

・研修の参加人数 計21名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○ 公開がん看護セミナー「免疫チェックポイント阻害剤における免疫関連有害事象 看護ができることは何だろう？—知って学んで 一歩先の実践へ！—」

・研修の期間 2023年12月19日～1月31日 web公開

・研修の対象施設・参加人数 全国の都道府県がん診療連携拠点病院、柏市訪問看護ステーション、当院認定看護師教育課程修了生の所属施設 視聴履歴 4コンテンツ総閲覧回数4273回 最大1159回 最小946回／44日間

○がん薬物療法認定薬剤師 認定研修（日本病院薬剤師会からの受託研修）

研修の期間・実施回数：2か月 年2回実施

研修の参加人数：第1期1名、第2期1名 計2名が研修を修了

○がん診療病院連携研修（日本臨床腫瘍薬学会からの受託研修）

研修の期間・実施回数：30日間（約1.5か月） 年3回実施

研修の参加人数：第1期2名、第2期1名 第3期0名 計3名が研修を修了

○地域保険薬局薬剤師を対象としたがん医療に関する研修会

研修の期間・実施回数：1回2時間 年2回実施

研修の参加人数：第1回120名、第2回92名 計212名

○近隣保険薬局薬剤師を対象とした経口がん薬治療に関する研修会

研修の期間・実施回数：1回1時間 年12回実施

研修の参加人数：計377名（第1回～第12回延べ人数）

○「放射線技術カンファレンス」（放射線技術部主催）

・研修の主な内容

周辺地域の診療放射線技師を対象に、以下の内容で開催した。 講師は院内スタッフが務める他、一部外部より講師を招聘した。

第16回（Web開催） 1. 当院における胃X線検査, 2. 当院における乳房超音波検査,

【特別講演】 世界一わかりやすい！臨床画像病理対比～胃癌・乳癌～

第17回（Web開催） 1. コロナ対策の紹介と工夫, 2. 地域に寄り添い続ける / 2020 年1 月からの関わり 【特別講演】 がん患者と新型コロナウイルス感染症

第18回（Web開催） 1. 当院における頭部単純CTのAI解析および 診療放射線技師の業務拡大について, 2. 当院におけるABL術前CT検査の運用について

【特別講演】 術前CTC ～検査の流れから三次元画像解析まで

・研修の期間・実施回数： 研修期間は毎回2時間、年度内で3回開催した。

・研修の参加人数

第13回 Web Live形式で実施 事前参加人数は162名で、Live時113名であった。

第14回 Web Live形式で実施 事前参加人数は83名で、Live時53名であった。

第15回 Web Live形式で実施 事前参加人数は113名で、Live時90名であった。

○「放射線（光子線）治療の品質保証・管理の実地研修」（放射線品質管理室主催）

・研修の主な内容

論文調査報告会を開講した。コース内訳は、最新の放射線治療の臨床および医学物理の情報提供である。担当は院内および院外の医学物理士が務めた。

・研修の期間・実施回数

研修期間は各コースともに1時間で、10回実施した。

・研修の参加人数

参加延べ人数は約110名であった。

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	クオリティマネジメント室長 西澤 祐史
管理担当者氏名	総務課長 富岡 謙二 医療安全管理室長 内藤 陽一 臨床工学室長 兼平 丈 放射線技術部長 永井 優一 臨床検査部長 山川 博史 COI管理室長 一家 綱邦 サポートケアセンター長 池田 公史 医事管理課長 吉住 秀之 感染制御室長 沖中 敬二 薬剤部長 川崎 敏克 副放射線技術部長 伊藤 昌司 臨床研究支援部門長 佐藤 暁洋 産学連携支援室長 小石原 保夫

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	・総務課 ・医事管理課 ・薬剤部 ・看護部 ・医療情報管理部 ・電子カルテ	・病院日誌、各科診療日誌（日当直日誌） ⇒総務課 2 年保管 ・処方箋 ⇒薬剤部 5 年保管 ・診療録記録（診療録・諸記録・エックス線等）、手術記録 ＜電子媒体＞ ⇒電子カルテ管理 ＜紙媒体＞ ※院長が指定したものについては永久保存 ⇒医事管理課保管 (1)診療録15年。 （電子カルテ導入2008年） (2)内視鏡フィルム10年 （内視鏡システム導入2013年） (3)X線フィルム5年 （PACS導入1990年代） ※院内規程で診療録を病院外へ持ち出すことを許容していない。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	文書保存 電子媒体
		高度の医療の提供の実績	医事管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事管理課	
		高度の医療の研修の実績	教育連携室	
		閲覧実績	総務課、医事管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事管理課 薬剤部	
	規則第十一條第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存 電子媒体
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	

		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
--	--	--	---------	--

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	文書保存 電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療情報管理室 サポーターケアセンター 医事管理課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	企画経営部
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	企画経営部
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	企画経営部

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 土井 俊彦
閲覧担当者氏名	総務課長 富岡 謙二
閲覧の求めに応じる場所	統括事務部柏キャンパス総務課
閲覧の手続の概要 閲覧者希望者は閲覧申請書を病院長あてに提出し、閲覧に問題がないことを確認した後に、閲覧者あてに承諾書を発行する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0件
閲 覧 者 別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 患者に対する十分なインフォームド・コンセントに基づいて「患者と医療従事者との良好な信頼関係を樹立」し、患者本位の全人的かつ安全な医療を提供する。また、医療に係る苦情、相談についても適切に対応する。 2. 医療における基本の徹底およびその質の向上を図るとともに、全ての医療従事者に「医療過誤は絶対起こさない」という意識改革及び啓発を図るため、教育・研修および講演会を定期的に開催する。 3. 医療従事者自らが、医療行為の基本的事項を日々点検・確認し、アクシデント（医療事故）又はインシデント事例が発生した場合は直ちに所属リスクマネージャーに報告するとともに患者および関係者に説明のうえ適切に対処し、アクシデント（医療事故）内容等の調査・検討および再発の防止対策を速やかに講ずる。 4. アクシデント（医療事故）またはその可能性がある事故発生時は、医療従事者個人ではなく、病院として対応（患者説明を含む）し、病院長の指示の下に行う。 5. 上記4つの事項を遂行する為に、次に掲げる組織及び体制を整備する。 1) 医療安全管理委員会 2) 医療安全管理部会 3) 医療事故調査委員会 4) 医療安全管理室 5) リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議 6) 医療事故防止に対する外部評価 7) 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等導入 8) 患者・家族相談窓口 6. 本指針は、患者およびその家族等へ掲示等により周知させるものとする。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 1. 安全管理について審議するため、病院長を委員長とする医療安全管理委員会を設置し以下の内容を審議している。 1) 安全管理の指針に関すること 2) 医療事故防止の体制に関すること 3) 医療事故防止に関する啓発・普及・研修に関すること 4) 医療事故に係る院内体制に関すること 5) 医療安全管理部会で審議された事項に関すること 6) 当院において重大な問題が発生した場合における速やかな原因の究明・調査・分析・改善のための方策立案・周知、方策実施状況の調査・見直しに関すること 7) 医療事故として判断された場合における原因調査対応策及び院外報告に関すること 8) 医療事故調査委員会の設置に関すること 9) 死亡の予期及び報告に関すること 10) その他医療事故に関する必要な事項 2. 医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に院内の安全管理を担うため、委員会の下に医療安全管理部会（年12回開催）を設置し以下	

の内容を審議している。

- 1) 医療安全管理委員会の決定に基づき、具体的な対策の企画及び立案に関する
こと、その他部会の庶務に関すること
- 2) インシデント・アクシデント・有害事象報告の分析と検討及び医療事故防止
対策の策定に関すること
- 3) 対策の実施状況の調査及び必要に応じた対策の見直しに関すること
- 4) 安全管理のための研修・啓発普及・教育等の企画立案及び実施に関すること
- 5) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関すること
- 6) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関すること
- 7) 事故等の原因究明についての確認・指導に関すること
- 8) 全死亡例チェックに関すること
- 9) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること
- 10) その他医療安全対策の推進に関すること

3. 週1回の医療安全管理部会員による報告事象検討会では、医療安全管理室へ報告されるインシデント・アクシデント・有害事象の情報共有・再発防止策の検討・医療安全管理部会への報告事象の選定等が行われる。報告事象検討会で選定された報告事象は、医療安全管理部会にて予防策の策定及び提言について検討され、医療安全管理委員会にて最終審議が行われる。医療安全管理委員会での決定事項は、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて説明・指示・伝達され、職員への周知がなされる。

＜医療安全管理委員会構成員＞

委員長：病院長

委員：医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）、医療安全管理室長、先端医療開発センター長、副院長、内視鏡センター長、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者（放射線診断科長）、看護部長、副統括事務部長、臨床検査部長、放射線技術部長、医事管理課長、医療安全管理者、顧問弁護士、その他委員長が必要と認めた者

＜医療安全管理部会構成員＞

部会長：医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）

部会員：医療安全管理室長、医療安全管理者、感染制御室医師、外科系医師・内科系医師（各3名）、看護師長（2名）、医療安全専従薬剤師（副薬剤部長）、副放射線診断技術室長、副放射線治療技術室長、副臨床検査部長、臨床研究安全管理担当者、栄養管理室長、臨床工学室長、主任理学療法士、医療対話推進係長、診療情報管理士、医療情報部員、その他部会長が必要と認めた者

＜リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議構成員＞

医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）、医療安全管理室長、医療安全管理者

リスクマネージャー：科長・部長・課長・技師長・室長

サブリスクマネージャー：副部長・看護師長・副技師長

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年11回

・ 研修の内容（すべて）：

研修名	内容	対象者	参加人数
新採用者 オリエンテーション	医療安全管理について	新採用全職員	153 名
初期技術研修 1： 医療安全の基本	医療安全の基本について	新人看護師	48 名
初期技術研修 1：	転倒転落の基本、要因、予防策	新人看護師	48 名

転倒転落			
中途採用・育休復帰者 オリエンテーション	医療安全管理の基本について	中途採用・復職者 全職種	165 名
◎東病院の医療安全管理体制と事例報告（e-ラーニング）	当院の医療安全管理体制、医療事故調査制度、外部監査とピアレビュー、事例と対策等の講演	全職員 （委託派遣者含む）	1803 名
◎BLS・AED （e-ラーニング）	急変時対応 BLS と AED 操作について	全職員 （委託派遣者含む）	1803 名
◎BLS・AED 演習	BLS・AED の実地研修（演習）	全職員	1737 名
麻薬・向精神薬の説明会	麻薬・向精神薬の取り扱い	看護師	337 名
MRI 吸着事故防止	MRI 検査の基本・禁忌医療機器・起こりうる事故について（講義・磁場体験）	看護師・看護助手・看護補助者（R4.11 月以降採用）	62 名
◎心理的安全性について（e-ラーニング）	・現場に心理的安全性がないとき ・心理的安全性と医療安全文化	全職員 （委託派遣者含む）	2083 名
医薬品の安全使用のための研修	・医薬品の安全使用のための手順書について ・ハイリスク薬について ・高濃度KCL注の投与について ・医薬品による副作用等が発生した場合の対応について（医政安発0607 第 1 号に基づく内容）	医師、薬剤師、看護師	800 名

◎は全職員受講必須研修

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無）
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
- 1. 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等を定める医療安全管理規程により、医療安全管理委員会、医療安全管理部会を設置している。
- 2. 各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを設置し、インシデント・アクシデント事例の報告内容の把握・検討等を行うなど、医療安全対策の改善・向上に取り組んでいる。

【具体的内容】

1. 患者誤認対策：患者参画型での確認、タイムアウトの実施
2. 患者影響レベル0報告の推進：年度目標25%以上
3. 部署別年間活動：医療安全管理部会での取り組み
4. 医師の報告率推進：年度目標13%以上
5. 転倒転落防止策強化：転倒転落率0.25%以下
 - 1) 看護師要因の転倒削減：患者の傍を離れないことの徹底
 - 2) 転倒転落防止デー・ウィーク：転倒0件と積極的なレベル0報告
 - 3) 患者参画型での防止策実施
6. レポート開封率：目標100%
7. 医療安全管理室ラウンド
 - 1) 患者確認方法
 - 2) ポケットマニュアル携帯状況
 - 3) 医療安全周知事項（ニュース内容）確認
 - 4) ハリーコール周知状況確認ラウンド
 - 5) 環境ラウンド（転倒転落予防環境整備、モニターアラーム対応、与薬カート・麻薬金庫施錠状況含む）
8. 個人情報管理強化：白衣洗濯時・院内での個人情報関係拾得物（名札紛失も

含む)の報告を徹底

9. 退院時薬剤等渡し忘れ対策

10. 新規治療導入

1) 高難度新規医療技術評価委員会：2件

2) 未承認新規医薬品等評価委員会：2件

10. 救急体制の整備：BLS研修、RRS体制の見直し

11. 院内事例検討会：0件

12. 医療事故調査委員会：0件

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無		
・ 指針の主な内容： 院内感染対策委員会および感染制御室を設置し、院内感染の発症原因・状況の調査を行い、また対策の策定・指導・評価を実施し院内感染の防止に努める。その実働役割として院内感染対策チーム（ICT）を設置している。2019年度に抗菌薬適正使用支援チームを設置し、抗菌薬適正使用の推進活動を強化した。他、現場における院内感染対策推進活動を行うICTリンクナースを配置している。 ICTはサーベイランス、感染に関するコンサルテーション、感染対策マニュアル、抗菌薬適正使用マニュアルの作成・改訂、職業感染防止対策に関する院内の現状把握と対策、職員への感染対策に関する啓発・教育、他施設との感染対策に関する情報交換を行うものとする。またアウトブレイク等の問題発症時には、ICTは現場調査を行い、感染対策実施状況を把握するとともに、対応策の立案および現場への指導を行う。保健所への届け出が必要な場合には、事務職員が届出を行う。院内の対策で収束されない場合は外部専門機関（千葉県院内感染対策地域ネットワーク）に相談する。 委託職員を含めた全職員を対象に年2回程度定期的に院内感染対策研修を企画・運営する。			
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回		
・ 活動の主な内容： 院内感染対策委員会では、院内感染情報報告・抗菌薬使用状況報告・手指消毒剤使用量報告等を行い院内の感染発症状況と対策を把握しICTが行っている対策の指導評価を行っている。また感染対策に関する研修は委員会による強制力をもって受講するよう指導している。 毎日のMicrobiologyラウンドに加え、院内ラウンド・抗菌薬ラウンドを毎週実施し、その結果を院内感染対策委員会とICT連絡会で報告している。			
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年9回		
・ 研修の内容（すべて）：			
テーマ	内 容	対象者	参加人数
新採用オリエンテーション	当院の感染対策とその対応	全職種の新採用者	153 名
新人看護師教育初期技術研修	感染対策の基本	看護師の新採用者	48 名
新入職医師 新型コロナウイルス感染対策・N95フィットテスト	個人防護具の正しい着脱方法とN95漏れ率の測定	医師の新採用者	44 名
◎血液体液暴露について	血液体液暴露の予防と暴露後の対応について	委託職員を含めた全職員	2053 名
がん患者と新型コロナウイルス感染症	最近の国内の現状、内服抗菌薬の課題	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	900 名
病院のコロナ対策	手指衛生のタイミングと方法	委託職員	245 名
新入職薬剤師 個人防護具着脱訓練	個人防護具の正しい着脱方法	薬剤師の新採用者	6 名

◎ワクチンについて	ワクチンの効果、免疫不全とワクチン	委託職員を含めた全職員	2,054 名
経口第3セフェム系、経口キノロン系について	抗菌薬の適正使用	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	876 名

◎は全職員受講必須研修

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 細菌検査室と毎日血液培養等の検出菌について情報を共有している。また、毎週院内における全検出菌のチェックを行い、その動向を確認している。院内で規定の標的微生物が検出された場合には、電話で院内感染管理者、発生部署、担当医に報告する体制としている。感染症発生状況について月情報をまとめ院内感染対策委員会で報告している。
 - ・ 電子カルテシステムを利用したアウトブレイクの監視、環境ラウンドによる衛生環境の整備、感染対策向上加算に基づいた地域病院への指導、相互評価での指摘に応じた環境改善を実施している。抗菌薬が院内で適切に使用されるよう支援も実施している。また、がん患者の感染症予防対策についての情報提供をホームページにて公開している。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症については、患者・職員の陽性者・濃厚接触者サーベイランスを行い院内の発生状況を把握している。入院患者には抗原定量検査を用いてスクリーニング検査を実施し、更に入院時はCOVID-19を疑う症状がないか複数回確認するなど院内への感染症の持ち込み防止対策を強化している。その他、患者向けの情報発信は、新型コロナウイルス感染症やコロナウイルスワクチン接種についてホームページを活用し情報公開を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
- 研修の主な内容： - 医療従事者を対象とした医薬品の安全使用に関する研修会 「医薬品の安全・適正な使用について」 (対象：医師、薬剤師、看護師) (受講者数：800名、受講率：100%) - 看護師を対象とした麻薬・向精神薬の取扱いに関する研修会 「麻薬・向精神薬の取扱い」 (対象：全病棟看護師) (受講者数：337名、受講率：100%)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (☒有・無) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： - 名称・外観が類似している医薬品、複数規格が採用されている医薬品については、注意喚起に関する表示、取り間違い防止の対策を講じている。 - ハイリスク薬については、払い出し時にリマインドカードを添付するなど薬品個別に対応している。特に抗がん剤は、B型肝炎ウイルスの再活性化の防止対策も含め、適正使用の観点からすべてのオーダーをレジメンごと薬剤師が確認している。 - 病棟における医薬品に関する業務手順の順守状況について、薬剤師が定期的にチェックしている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○未承認新規医薬品等評価委員会での審議件数：2件 1. Erdafitinib 対象疾患：胃癌（FGFR2遺伝子増幅） 申請診療科：消化管内科 2. 抑うつ症状治療アプリケーション（BC-11） 対象疾患：抑うつ状態の乳がん患者 申請診療科：精神腫瘍科 ○国内既承認医薬品の適応外使用に係る薬事委員会審議件数：114件 (抗がん薬：47件、抗がん薬以外：67件) - その他の改善のための方策の主な内容： 1. DPP-4阻害薬による類天疱瘡への適切な処置について 「PMDAからの医薬品適正使用のお願い」が発出され、医師、薬剤師、看護師へ周知した。	

2. ニトロソアミン類（NTP）が検出されたシタグリプチンリン酸塩水和物製剤の使用による健康影響評価の結果等について
シタグリプチンを含有する医薬品からニトロソアミン類の一種NTPが検出された報告を受け、調査結果が公表された。発がんの可能性はないとは言えないものの、リスクが極めて低いこと、当該薬剤の服用中誌によるリスクの方が大きいことから、当該薬剤の安易な服用中止をしないよう院内の医師、薬剤師、看護師へ注意喚起した。
3. ダカルバジンの出荷停止について
院内の使用状況の把握と在庫数、今後の納品数の調整を行い、院内関係部署へ周知した。
4. ジェブタナの出荷停止について
院内の使用状況の把握と在庫数、今後の納品数の調整を行い、院内関係部署へ周知した。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年31回（臨床工学） 年135回（放射線） 年16回（臨床検査）
・ 研修の主な内容： 【臨床工学部門】 令和5年度の総研修回数は31回で、追加・伝達講習を含めた修了率は100%であった。 以下に概要を示す。 - 新機種（後継機種）の安全使用研修 ①AED 1回（e-ラーニング）, 100% ②手術支援ロボット 複数回, 100%（1回としてカウント） - 新規採用看護師対象の初期技術研修 11回, 100%（人工呼吸器編 3回あり） - 人工呼吸器安全使用研修 11回, 100%（上記、初期技術研修は含まず） - 血液浄化療法研修会 2回, 100% - ME対象救急蘇生（BLS）研修 1回, 100% - 除細動器研修会 2回, 100% - ラジオ波焼灼装置研修会 2回, 100% 【放射線部門】 令和5年度の総研修回数は135回で、平均参加率は100%（含：後日伝達）であった。 以下に概要を示す。 - 新規医療機器導入時の安全使用研修 5回, 100% - ローテーション時における各装置の操作マニュアル、運用マニュアルによる研修90回, 100% - 装置のバージョンアップ・メンテナンス時の操作変更時の研修 1回, 100% - 故障時の対応方法の研修 該当なし 13回, 100% - 医療機器の安全に関する法令に関する研修 16回, 100% - 各分野の機器類のトレンドに関する研修（勉強会を含む） 10回, 100% 【臨床検査部門】 令和5年度の総研修回数は46回で参加率は100%であった。 以下に概要を示す。 - 新規医療機器導入時の安全使用研修 8回, 100% - ローテーション時における各装置の操作マニュアル、運用マニュアルによる研修 37回, 100% - 装置のバージョンアップ・メンテナンス時の操作変更の研修 0回 - 故障時の対応方法の研修 3回, 100% - 医療機器の安全・法令に関する研修 2回, 100%	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	・ 医療機器に係る計画の策定 （ ☒ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 【臨床工学部門】 - 人工呼吸器 （5機種、12台）：メーカー・院内技士による定期点検実施 - 除細動器 （1機種、3台）：メーカーによる定期点検実施 - 血液浄化装置 （2機種、3台）：メーカーによる定期点検実施 - 血液成分分離装置 （1機種、2台）：メーカーによる定期点検実施 - 手術支援ロボット （1機種、3台）：メーカーによる定期点検実施 【放射線部門及び放射線品質管理室】

令和5年度の保守点検回数は117回、修理回数は180回であった。

1. コンサルティング会社と連携し、前年度の機器の整備保守状況を把握・勘案し、適切な保守内容および点検間隔を計画し策定した。
2. 施設より承認・契約された保守計画に従って、メーカー担当者により点検が実施され、その動作確認および点検内容を各部門の安全管理担当者が確認し、副安全管理責任者が承認した。日常点検は各機器担当技師が実施し、電子カルテ端末内に記録・評価・保存した。
3. 診療用高エネルギー放射線発生装置及び粒子線照射線装置は、医学物理士と放射線技師が連携し、品質管理試験を定期的実施、記録・評価・保存をした。
4. 地震等の災害発生時には随時、上記装置の品質管理試験を実施・評価し、その品質を担保した。

【臨床検査部門】

1. 定期的保守点検
 - 1) 通常メンテナンス：毎日または週1回
 - 2) 主要部品（消耗品）の交換および定期保守点検：月1回
 - 3) 機器メーカーによる定期メンテナンス（年1回～2回：150回）
2. 法令に基づく定期補油点検
 - 1) フロン類の使用合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）に関する冷蔵庫等の保守点検
実施日：3か月に1回の頻度で実施
場所：病理、遺伝子、検体、細菌、輸血の各検査室
 - 2) 局所排気装置の自主点検指針に基づく定期点検（厚生労働省労働基準局）
作業環境測定
実施日：4/3、4/20、6/1、6/30、7/3、12/25、2/21
項目：ホルムアルデヒド、キシレン、メタノール、アセトン
場所：NEXT棟2F病理検査室及び本館B1解剖室（器材室）、本館2F検体検査室
結果：すべて管理区分1で良好

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無）
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：

【臨床工学部門】 なし
【放射線部門】 あり
【臨床検査部門】 なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【臨床工学部門】

1. PMDA医療機器の回収等に関する情報収集
 - 1) 不具合品の回収および交換：10製品、1413個
 - 2) 機器の自主回収（ソフトウェアバージョンアップ対応等）：1製品、11台
2. 関連機関およびメーカーから提供される情報の収集と発信
 - 1) オリンパス気腹装置の自主回収について、使用上の注意
 - 2) 超音波ネブライザの使用上の注意
 - 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用上の注意

【放射線部門及び放射線品質管理室】

1. PMDAおよびメーカーにより提供される不具合情報の収集
全体件数は591例で、内訳は医薬品関連：388例、医療機器関連：151例、その他：52例であった。
2. 国立病院機構本部から提供される他院での不具合やインシデント事例情報の収集
全体件数は32例で、内訳は装置関連：1例、医療安全関連：6例、その他：25例であった。
3. 1.2の内、当院に直接関連した不具合情報は1例であった。1例は一般撮影装置における管球

保持部のボルトが疲労破壊により破断し、管球保持部が落下する事象が発生した為、自主改修し修理が完了している。

5. 高精度放射線治療を始めとする品質管理に関係する学会（米国医学物理学会）等のガイドラインを積極的に取り入れ、品質管理の適正化と効率的な運用を実施・報告した。
6. 高精度放射線治療に対する最新技術について国内外の学会等から情報を入手し、最新装置に対応した品質管理手法の確立・応用に努めた。
7. 患者さんへの精度の見える化活動の一環として、放射線品質管理室が実施する放射線治療照射装置及びCTの精度管理の結果、並びにMD Anderson Cancer Centerの第三者出力調査の結果を放射線治療待合室脇の掲示板で掲示した。
8. 放射線品質管理室が実施する故障時のリニアックおよびCTの品質管理業務の対応件数がそれぞれ20件および5件であった。

【臨床検査部門】

1. PMDA医薬品等の回収に関する情報収集
 - 1) 医薬品回収概要（クラスⅠ）院内保有機器、試薬で該当は無し
 - 2) 医薬品回収概要（クラスⅡ）院内保有機器、試薬で該当は無し
2. 関連機関＜NH0医療専門職・行政＞からの医薬品等の回収に関する情報収集（院内保有機器、試薬で該当は無し）
3. 企業からの医薬品等の回収に関する情報収集
 - 1) ロシュ ベンタナALK（D5F3）の弱陽性
 - 2) ロシュ エクルーシスクリーンセルM 内部に金属片混入いずれも当院での影響は無し

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
・責任者の資格 (医師)・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 1. 医療安全管理責任者は常勤医師である、医療安全担当副院長が担う。 2. 医療安全管理体制と医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の統括状況 1) 医療安全管理委員会/医療安全管理部会 ・医療安全管理委員会は医療安全に関する最高審議機関であり、病院長を委員長とし事象に対する原因分析や再発防止対策の検討・提言を行う。 ・医療安全管理部会は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）を部会長とし、医療安全管理委員会のもとインシデント・アクシデント報告の分析、具体的な対策の企画及び立案、改善策の実施状況調査等、委員会の方針に基づき医療安全の実務を行う。 2) 医療安全管理室（医療安全管理部門） ・医療安全管理室は組織横断的な院内の安全管理を担い、委員会の庶務、インシデント・アクシデント報告の整理・保管、現場や診療録からの情報収集及び実態調査、職員へ教育研修等を行う。 3) 医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の統括状況 ・医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）は部会長として医療安全管理部会の業務を統括し、部会の審議結果を医療安全管理委員会に報告する。 ・医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）は医療安全管理室を統括する。インシデント告内容、診療録及び診療内容のモニタリング等を室員と情報共有し、室員は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医療安全のための業務を行う。 3. 医薬品安全管理の統括状況 1) 医薬品安全管理責任者は薬剤部長とする。 2) 医薬品安全管理責任者は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医薬品安全使用のための業務を行う。 4. 医療機器安全管理の統括状況 1) 医療機器安全管理責任者はクオリティマネジメント室長とする。 2) 医療機器安全管理責任者は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医療機器安全使用のための業務を行う。 3) 副医療機器安全管理責任者（放射線技術部長、臨床検査技師長、主任臨床工学技士）は医療機器安全管理責任者の指示のもと、医療機器安全使用のための業務を行う。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（ 3名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報管理室において情報の収集と評価および整理を行い、院内への情報伝達を行う。病棟薬剤業務担当者により病棟等での情報の周知について確認するとともに、必要に応じて更なる情報伝達を行っている。	

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内における未承認等の医薬品の使用について、医薬品情報管理室を中心として有効性・安全性に関する必要な情報を収集するとともに、医療安全管理室と連携して有害事象の発現に注意を払い適正使用を推進するための方策を検討している。	
・担当者の指名の有無 (有)・無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤部長) (所属：薬剤部 ， 職種 主任薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医療行為の内容とそれによってもたらされる危険性・副作用、予測される結果、代替可能な医療行為の有無と内容、これらを実施しなかった場合に予測される結果等について患者へ説明し同意を得るとともに、医師等の説明に基づき患者が自身の病状について十分に理解し治療に協力し、相互の信頼関係に立脚した適切な医療の遂行と治療効果を達成することを目的とし、説明事項・説明者・同席者・説明の相手方・説明方法・同意書の取得等を定めている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 入院中の診療記録に関しては、退院時に当該科医長あるいは医員が、記載の不十分なもの、誤記載等について担当者に記載の追加・修正を依頼している。 診療情報管理士は、退院後2週間を経過したのち入院時の診療記録の監査を行い、不備があるときは、医師記録に関して主治医及び当該医長に不備の修正を依頼するなど適正な記録の管理に努めている。 退院時サマリーに関しては、退院後2週間以内に作成し、上級医の承認を得る運用となっている。 診療科ごとに監査担当医師・看護師・薬剤師を決め、指定された月に指定された診療科の診療記録について、医師・看護師・薬剤師・診療情報管理士による質的監査を行っている。 診療情報管理委員会では、診療記録に関する問題点を報告し、改善方策を策定するとともに、院内において病院連絡会等で周知をはかるとともに改善状況のフォローアップを行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（4）名、専任（0）名、兼任（8）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名	

うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名
 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（１）名

医療安全管理部門	医療安全管理責任者		医療安全担当副院長	専従
	医療安全管理室	医療安全管理室長 医療安全管理者 専従薬剤師 専従看護師 臨床研究安全管理担当者 高難度新規医療技術部門責任者 高難度新規医療技術担当者 高難度新規医療技術担当者 未承認新規医薬品等部門責任者 未承認新規医薬品等担当者 未承認新規医薬品等担当者	総合内科科長 副看護部長 副薬剤部長 副看護師長 薬剤師 肝胆膵外科科長 泌尿器科科長 手術室看護師長 薬剤部長 放射線診断科科長 消化管内視鏡科科長	兼任 専従 専従 専従 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任
	感染制御室 (医療安全所属 職員数には含め ず)	感染制御室長 感染症科医師 院内感染管理者 専従薬剤師 専任薬剤師 専任薬剤師 専任検査技師 専任検査技師	感染症科科長 感染症科医師 副看護師長 薬剤師 薬剤師 薬剤師 検査技師 検査技師	兼任 兼任 専従 専従 兼任 兼任 兼任 兼任

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 医療安全管理室の活動の主な内容

1) 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存並びにその他委員会の庶務に関すること

2) 医療安全に係る日常活動に関すること

① 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）

② 医療安全管理マニュアルの作成及び点検、見直し

③ 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言

④ インシデント・アクシデント・有害事象報告（インシデント・アクシデント・有害事象報告事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文書をいう。以下同じ。）の収集分析、分析結果などの現場へのフィードバック、改善策の提案・推進とその評価、報告書の保管

⑤ 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知（他施設における事故事例の把握など）

⑥ 医療安全に関する職員への啓発、広報（月間行事の実施など）

⑦ 医療安全に関する教育研修の企画・運営

⑧ 医療安全管理に係る連絡調整

⑨ 全死亡例チェックの実施と報告の管理

⑩ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録

⑪ 医療安全管理委員会との連携状況、院内研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱い、その他の医療安全管理者の活動実績を記録

⑫ 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンス（医療安全管理室員及び医療安全管理部会員によって構成される報告事象検討会）を週1回程度開催

3) 医療事故発生時の指示・指導に関すること

① 診療録や看護記録等の記載、医療事故報告書（診療経過報告書）の作成等について、職場責任者に対する必要な指示、指導

② 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認と必要な指導（患者及びその家族、警察等の行政機関等への対応は、病院長、副院長のほかそれぞれの部門の責任者が主として行う）

③ 委員会の指示により設置される医療事故調査委員会の事務

④ 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導

⑤医療事故調査委員会報告書の保管

4)新規高難度技術・未承認医薬品導入の審査及び監査に関すること

5)その他医療安全対策の推進に関すること

＜モニタリング事例＞

- ・インシデント、アクシデント件数
- ・転倒転落発生率
- ・患者誤認
- ・個人情報管理
- ・退院時渡し忘れ
- ・術後合併症に伴う再手術
- ・RRS 起動件数
- ・DVT/PE 評価の実施率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：

1.「ANSUR サージカルユニットを用いたロボット支援腹腔鏡下手術」の導入：R5.9.25 評価委員会、導入承認

2.「ロボット支援下直腸がん手術」の導入：R6.1.26 評価委員会、導入承認

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：

医療安全管理部門は、規程に則り、当院における未承認新規医薬品等の使用の適否等を未承認新規医薬品等評価委員会において審議するとともに、使用申請医師から提出される使用状況報告書の内容を診療録等にて確認し、当該医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか遵守状況を確認している。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☐有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 669 件

1. 死亡症例については死亡診断した医師が、死亡診断書作成と同時にその状況を電子カルテの「死亡報告」フォームに入力し、医療安全管理部門に全件報告を行う。
2. 入院患者死亡例のうち、治療関連死亡もしくは予期しない死亡の場合は、担当医が速やかに電子カルテ書式による報告を 1. とは別に医療安全管理室へ行う。

報告件数：年 29 件

3. 全死亡例チェックの実施

上記の報告体制に加え、診療情報管理室が週 1 回、1 週間分の全死亡症例リストを作成し医療安全管理室に報告する。1 次スクリーニングとして、医療安全管理部会員の医師が死亡症例リスト患者の診療録を確認し、①予期した原病死②予期した他病死③予期した治療関連死④予期しない原病死⑤予期しない他病死⑥予期しない治療関連死⑦予期しない不明な死に分類する。2 次スクリーニングとして、医療安全管理責任者または医療安全管理室長が部会員とは独立して診療録を確認し、同様に分類する。1 次と 2 次スクリーニングで分類が異なった場合は、医療安全管理室にて協議し最終決定する。以上の結果③～⑦に分類された症例のうち 2. による報告がなされていない場合は、担当医に依頼し報告を確認する。

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 407 件

1. 医療安全管理マニュアルにて、死亡症例以外においても有害事象報告基準を以下のように定めており、該当した場合には担当医等から医療安全管理室へインシデント報告がなされる。

<有害事象報告基準>

- ①治療関連死
- ②ICU 管理が必要となった症例
- ③薬剤による SAE
- ④薬剤によるアナフィラキシーショック
- ⑤内視鏡による穿孔・処置を要した出血、予定時間 2 時間以上超過
- ⑥治療に伴う脳梗塞・心筋梗塞
- ⑦同一入院中の再手術
- ⑧予定手術時間の大幅な超過（2 時間以上もしくは予定の 1.5 倍以上）
- ⑨手術における 2000ml 以上の出血
- ⑩放射線治療に伴う重篤な有害事象
- ⑪irAE（Grade3 以上または稀な Grade1・2）
- ⑫CRS（ICU 入室症例）
- ⑬ICANS
- ⑭患者要因の抗凝固剤中止忘れによる治療・手術・検査の中止や延期
- ⑮有害事象に対する IVR 処置
- ⑯有害事象による 60 日以上の入院
- ⑰有症候性 PE/DVT 発症時
- ⑱その他

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 医療安全管理室に報告されたインシデント報告内容は、週 1 回の医療安全管理部会による報告事象検討会にて、情報共有・再発防止策の検討・医療安全管理部会への報告事象の選定等が行われる。報告事象検討会で選定された報告事象及び患者影響レベル 3b 以上の全症例は、医療安全管理部会にて報告され、予防策の策定及び提言について検討される。その結果は医療安全管理委員会にて報告され、最終審議が行われる。また、全死亡例チェック状況の結果も医療安全管理委員会に報告される。医療安全管理委員会での決定事項は、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて説明・指示・伝達され、職員への周知がなされる。
2. レベル 3b 以上の事例のうち、医療安全管理室が特に緊急性が高く速やかな対応が必要と判断した事例については、病院長のもと院内事例検討会を開催し、カルテ等の診療記録・職員からの聞き取り

等により事実確認にて、診療内容や患者影響度について検討・分析を行い、医療事故調査制度による報告、医療機能評価機構への報告、医療事故調査委員会での審議等の必要性を審議している。また、この結果は医療安全管理委員会にて報告される。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（**有**）（病院名：帝京大学医学部付属病院/R5. 11. 30 実地開催）・無）
・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（**有**）（病院名：帝京大学医学部付属病院/R5. 9. 21 実地開催）・無）
・技術的助言の実施状況：有
1. 高難度新規医療技術の導入実施後、当該診療科より定期的な報告を求めることが望ましい。
→個別報告書と定期報告書の書式を定め、R6 年 1 月以降の高難度新規医療技術導入分より当該診療科へ定期的に提出を求め、医療安全管理室にて確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況：
医療対話推進係長の設置

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 研修の実施テーマ

1) 第 1 回①

【テーマ】「東病院の医療安全管理体制と事例報告」e-ラーニング

【開催日】令和 5 年 7 月 14 日～7 月 31 日

【対象】全職員、委託派遣者

【講師】医療安全管理責任者 副院長 小西 大

【主な内容】東病院の医療安全管理体制、CLIP 報告実績、重大事例発生時と医療事故調査制度、特定機能病院要件（監査委員会・相互ピアレビュー指摘事項等）、体制整備と事例集、医療機器安全管理/診療放射線安全管理、院内での暴力迷惑行為への対応

【受講人数】1,803 名（受講率 100%）

2) 第 1 回②

【テーマ】

急変時対応 1「AED が届くまで」、急変時対応 2「AED の操作方法」

【開催日】令和 5 年 7 月 14 日～7 月 31 日

【対象】全職員、委託派遣者

【主な内容】AED が届くまでの手順と操作方法（動画）

【受講人数】1,803 名（受講率 100%）

3) 第 2 回

【テーマ】

①心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき

②心理的安全性と医療安全文化

【開催日】令和 6 年 1 月 24 日～2 月 14 日

【対象】全職員、委託派遣者

【主な内容】心理的安全性についての解説と医療安全との関わり（動画）

【受講人数】2,083 名（受講率 100%）

2. 研修の理解度テスト

令和 6 年度第 1 回 医療安全研修にて実施：（令和 5 年度第 1 回 研修テスト内容）

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・ 研修の実施状況 2023 年度 特定機能病院管理者研修 (日本医療機能評価機構 主催) 管理者、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者 : 2024 年 2 月 6 日受講 医薬品安全管理責任者 : 2023 年 11 月 20 日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・ 第三者による評価の受審状況 日本医療機能評価機構の病院機能評価・一般病院 3 を受審 訪問審査実施日 : 2023 年 10 月 30 日~11 月 1 日 ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 1. 院内死亡例における医療安全への報告について 担当医から医療安全管理室への死亡 1 週間以内の報告率が 2023 年 9 月実績にて 61.5%であり、医療安全管理室スタッフによる電子カルテでの把握事例が認められた。患者死亡時に担当医から速やかに死亡報告書が提出されるように仕組みの改善が求められる。 2. RRS の連絡体制について 要請時にまずは看護師から主治医へ連絡し、主治医の確認後に RRT リーダーへの要請が行われている流れであり、看護師から直接 RRT リーダーに連絡する体制となるよう、医療安全ポケットマニュアルの見直しを含めて仕組みの改善が求められる。 3. 高難度新規医療技術提供時の説明文書について 自院の過去実績等を十分に説明していない文書が認められた。新規医療技術を行うリスクについて患者が理解できるよう説明文書様式の統一が求められる。 ・ 評価を踏まえ講じた措置 1. 院内死亡例における医療安全への報告は、死亡診断書を作成と同時に死亡報告書入力フォームが自動的に電子カルテで起動するシステムを構築し、患者死亡日に必ず報告書が提出される仕組みへ変更した。 2. RRS の要請時は看護師から速やかに RRT リーダーへ直接連絡する体制へ変更するとともに、医療安全ポケットマニュアルも見直し、職員へ周知した。その結果、依頼件数が 2022 年度 11 件から 2023 年度 171 件に増加した。 3. 高難度新規医療技術に関して、自院の過去実績、行う上でのリスクを記載する院内統一の説明文書を定め、2024 年 1 月より運用を開始した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

以下の通り。（国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院及び東病院の病院長選考規程より抜粋）

- （１）病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること
 - ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務
 - イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務
 - ウ 医療安全管理部門における業務
 - エ その他上記に準じる業務
- （２）当該病院内外において組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること
- （３）中央病院及び東病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢と指導力を有していること

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・☐無）

- ・ 公表の方法

病院ホームページに掲載。

参考リンク：<https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/d001/about/kitei/index.html>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無	
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 病院ホームページに掲載。 参考リンク：https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/recruit/20231213131923.html					
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係	
中釜 齊	国立がん研究センター	○	病院長選考規程第3条第2項第1号に基づく役職指定者	無	
間野 博行	国立がん研究センター		医学・医療について豊富な経験と高い見識を有する者	有	
北川 雄光	国立がん研究センター		医学分野の診療・経営等に豊富な経験と高い見識を有する者	無	
尾崎 俊雄	国立がん研究センター		法人経営・医療業務の管理・運営に豊富な経験を有する者	有	
國土 典宏	国立国際医療研究センター		国立研究開発法人の理事長であり、また、医学・医療（病院運営）に豊富な経験と高い見識を有する者	無	
上田 龍三	名古屋大学大学院		医学（特になん研究）において豊富な経験と高い見識を有する者	無	

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☒ 有・無		
・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営に関する重要な事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 東病院運営会議の議事要旨を作成し、病院全体に周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページ ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒有・無 ） 規程上、議長が必要と認める者（外部有識者を含む）を東病院運営会議に参加させることができるとなっている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
土井 俊彦	○	医師	病院長
中釜 斉		医師	理事長
中山 鋼		医師	理事長特任補佐
須田 俊孝		事務	理事長特任補佐
土原 一哉		医師	先端医療開発センター長
林 隆一		医師	副院長
小西 大		医師	副院長
後藤 功一		医師	副院長
伊藤 雅昭		医師	副院長
吉野 孝之		医師	副院長
栗原 美穂		看護師	看護部長
川崎 敏克		薬剤師	薬剤部長
永井 優一		診療放射線技師	放射線技術部長
伊藤 昌司		診療放射線技師	副放射線技術部長
山川 博史		臨床検査技師	臨床検査部長
坪井 正博		医師	呼吸器外科長
内藤 陽一		医師	総合内科科長
小林 達伺		医師	放射線診断科長
矢野 友規		医師	消化管内視鏡科長
小川 朝生		医師	精神腫瘍学開発分野長
橋本 学		医師	麻酔科長

安永 正浩		医師	新薬開発分野長
佐藤 暁洋		医師	研究企画推進部長
石井 源一郎		医師	病理・臨床検査科長
南 陽介		医師	血液腫瘍科長
池田 公史		医師	肝胆膵内科長
東野 琢也		医師	形成外科長
葉 清隆		医師	呼吸器内科医長
小島 隆嗣		医師	医局長
西澤 祐吏		医師	クオリティマネジメント室長
久保木 恭利		医師	臨床研究実施管理部長
古賀 宣勝		医師	研究企画推進部門長
冲中 敬二		医師	感染症科長
樋山 一郎		事務	統括事務部長
中祖 恵輔		事務	副統括事務部長
原 慎治		事務	副企画経営部長
富岡 謙二		事務	総務課長
加羽澤 誠		事務	財務経理課長
吉住 秀之		事務	医事管理課長
成田 恭延		事務	システム管理課長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法：病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - 理事会規程：病院の運営に関する事項が審議される際、病院長は理事会に出席し、意見を述べることができる
 - 組織規程：病院長は、病院の事務を掌理する。また、特定機能病院としての機能を確保するために必要な事項に関して、理事長に意見を述べることができる。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 組織規程：副院長は、病院長を助け、病院の事務を整理する。
 - 企画経営部を設置し、センターの業務の企画及び調整に関すること、センターの経営に関することの事務をつかさどる。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 国立高度専門医療研究センター合同開催の「医療経営士研修会」等への参加

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無				
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務の遂行状況の確認及び不適切事案等の監視 2. 医療事故等事案発生時に、病院がとりまとめた不適切事案の詳細、原因の究明、再発防止等の適正性の評価 3. 前号までの知見に基づく是正勧告に関する事項 4. 医療安全管理委員会、高難度新規医療技術評価委員会及び未承認新規医薬品等評価委員会における運営状況に係る監査及び監査結果の報告 5. 病院における医療安全管理体制に係る意見書の提出 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：病院ホームページ					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長谷川 奉延	慶應義塾大学 病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通	(有)・無	1
小田 竜也	筑波大学附属 病院		特定機能病院の医療安全管理体制に精通	(有)・無	1
櫻井 公恵	NPO 法人 GISTERS		患者団体の役員として 医療問題に精通	(有)・無	2
福田 剛久	田辺総合法律 事務所		弁護士として関係の法律に精通	(有)・無	1
林 隆一	国立がん研究センター東病院		診療担当副院長として院内診療・医療安全体制を熟知	(有)・無	1

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

体制の整備状況及び活動内容

理事会、執行役員会、内部統制推進委員会

- ・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法：病院ホームページ

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 2 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 2 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 病院ホームページ			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中釜 齊	理事長	○	☒ 有 ☐ 無
大島 正伸	理事（研究・国際・がん対策担当）		☐ 有 ☒ 無
本田 麻由美	理事（広報・政策担当）		☐ 有 ☒ 無
山内 英子	理事（教育・人材育成担当）		☐ 有 ☒ 無
平沼 直人	理事（コンプライアンス推進担当）		☐ 有 ☒ 無
小野 高史	監事		☒ 有 ☐ 無
近藤 浩明	監事		☒ 有 ☐ 無
瀬戸 泰之	中央病院長		☐ 有 ☐ 無
土井 俊彦	東病院長		☐ 有 ☐ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 通報件数（年 0 件）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 周知の方法：職員専用の内部サーバー及び医療安全管理ポケットマニュアル

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ・ 胃外科主催NCCHE Robotic D2 Gastrectomy International Seminar：現地開催（2023年6月19日）胃がん手術に携わる国内外の医師が、ロボット支援下D2胃切除について議論する国際セミナー ・ 内視鏡ハンズオンセミナー2023：現地開催（2023年7月8日）ESD トレーニングモデル G-Master を使用したハンズオンセミナー ・ レジデントシンポジウム・レジデント説明会（2023年7月7日：現地開催、7月29日：オンライン開催）東病院のレジデントの研修、生活について情報を提供。講演、懇親会を通して、東病院の現場の雰囲気を体感 ・ 第25回地域連携のための情報交換会：現地開催（2023年10月12日）地域の先生方との関係構築と情報交換 ・ 第7回メディカルデバイスイノベーション in 柏の葉：ハイブリッド開催（2023年10月25日）柏の葉に医療機器イノベーションのエコシステム構築することを目指す ・ がん看護研修会 「コミュニケーションスキルトレーニング」アドバンス研修：現地開催（2023年12月1日）コミュニケーションスキルトレーニング研修を修了し基礎的な知識を学ばれた方に対して、所属施設や部署でNURSEを用いたコミュニケーションスキルトレーニング研修を開催することができることを目的としたアドバンス研修 ・ 第13回がん新薬開発合同シンポジウム、第7回医療機器開発シンポジウム：ハイブリッド開催（2023年12月15日）生成系AIをはじめとするデジタル技術、電磁波やマイクロバイームなど腫瘍周辺環境に働きかける新規技術、Digital Therapeutics など、医療技術開発プラットフォームについて相互理解を深める ・ AMED次世代医療機器連携拠点整備等事業関東3拠点合同シンポジウム 高度管理医療機器の開発戦略 治療デバイスの研究開発をやり抜くには？：ハイブリッド開催（2024年2月2日）筑波大学、国立がん研究センター東病院、東京女子医科大学の関東3拠点が一体となり、医療機器開発に関わる様々なトピックを取り上げ議論	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 各診療科で治療方針決定のための多職種カンファレンスを毎週実施 ・ 外科ミーティング、内科ミーティングをそれぞれ月1回開催し症例の検討や医療安全に関わる情報を共有する体制がある ・ 通院治療センター、入院準備センター、LIFE支援センター、サポートイグケアセンター/がん相談支援センター、家族性腫瘍外来等の配置 ・ 嚥下サポートチーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、感染制御チーム、院内迅速対応チーム、臨床倫理コンサルテーションチーム等の配置	